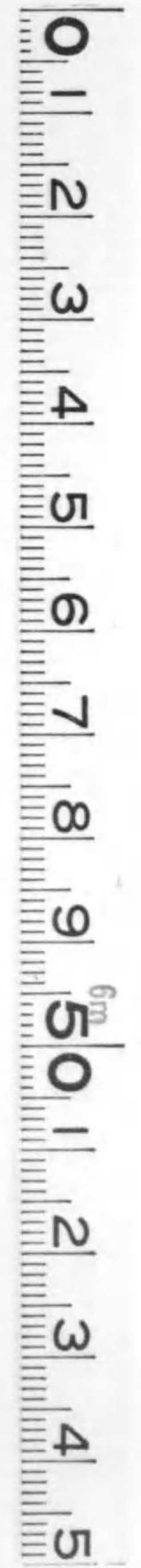


318
443



始



3. 6.1

3/8-443



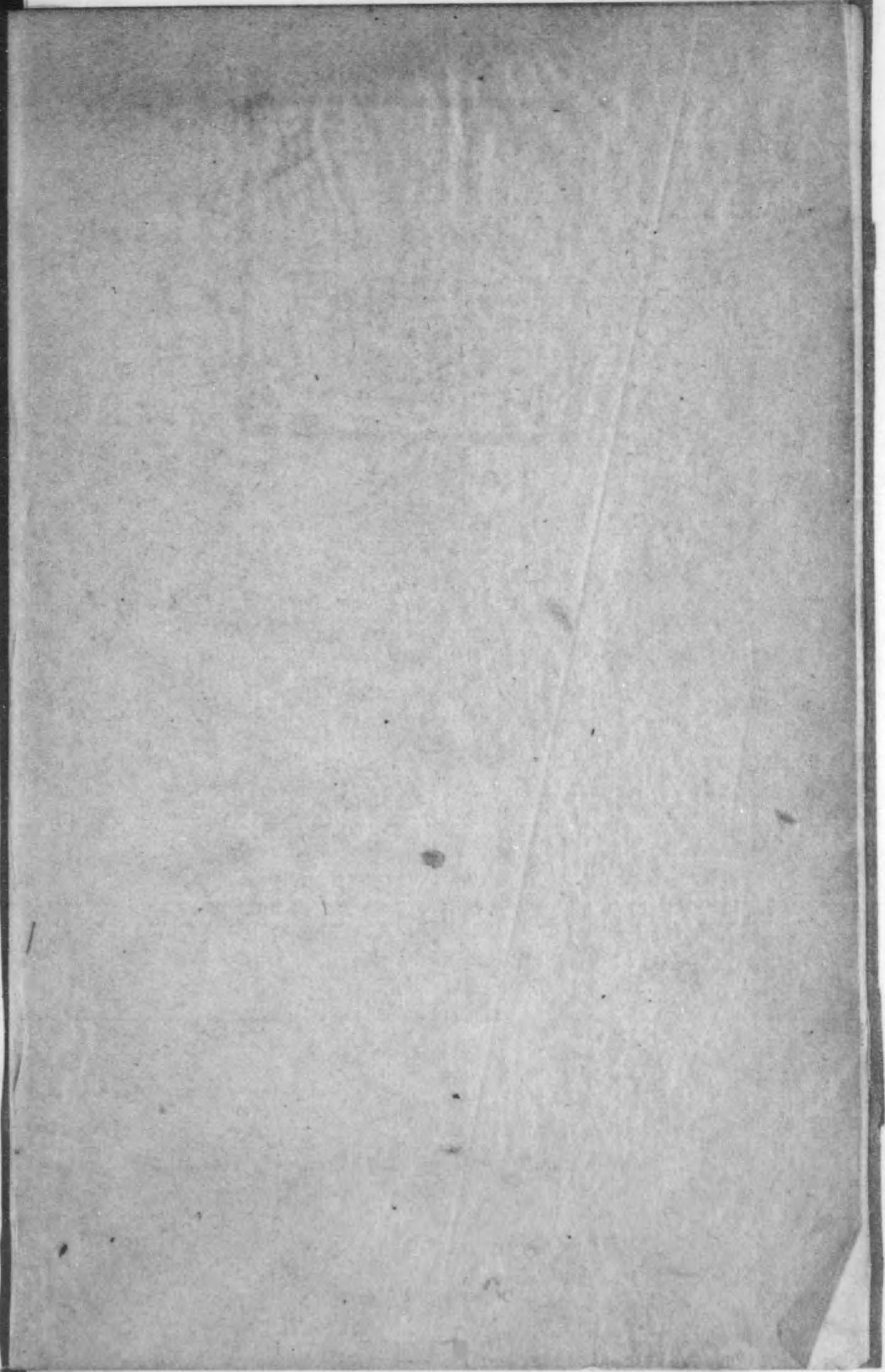
海軍省
上代一年

大正
9. 10. 25
内交

露光量違いの為重複撮影



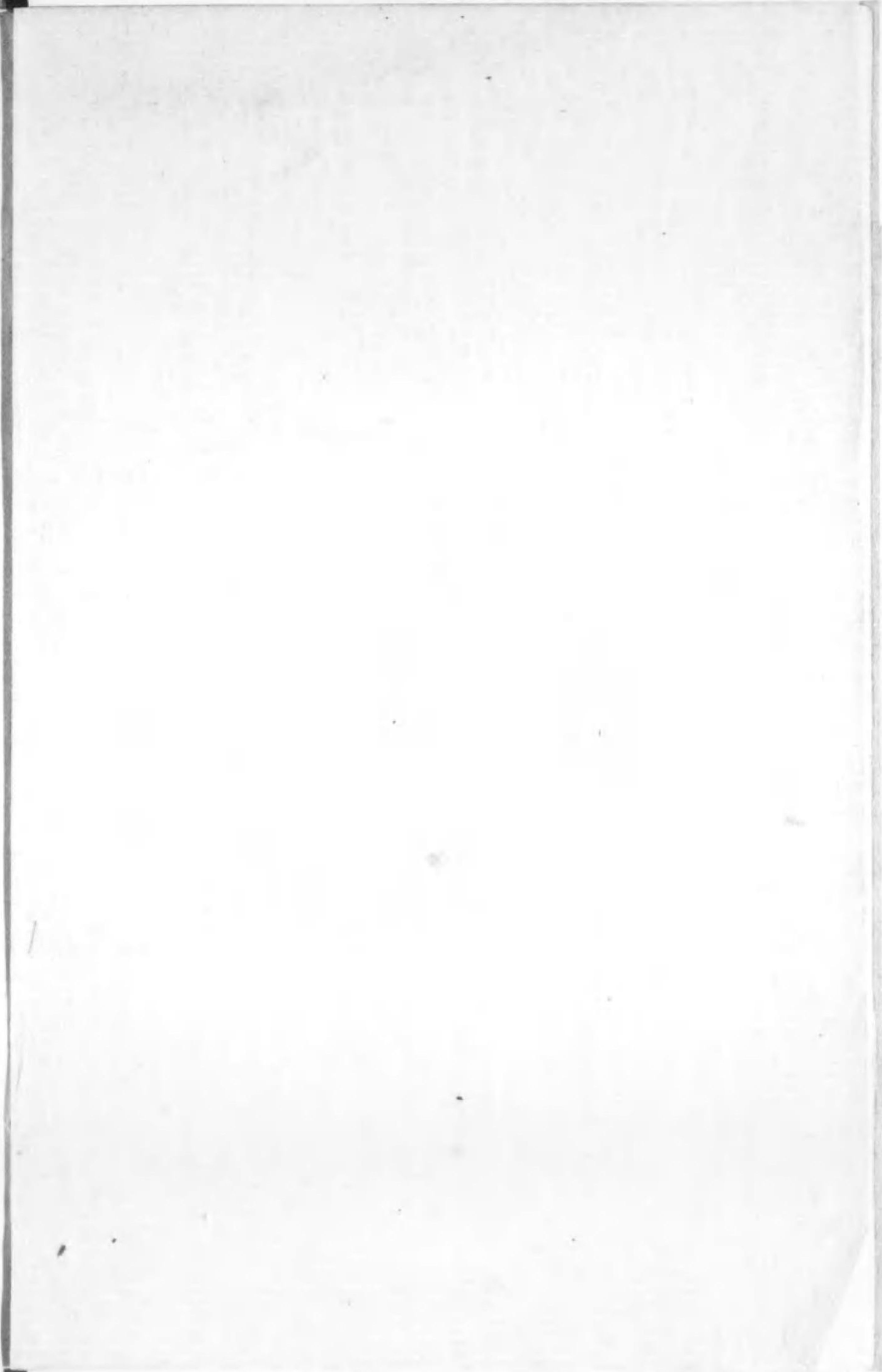
北太平洋に於ける霧



露光量違いの為重複撮影



北太平洋に於ける怒濤



序文

本書は何人の助力を求めず何人の校正を請はず獨立不羈而も旗幟を鮮明にして責任の所在を明かにし又官權と情實とに何等の顧慮を爲すことなく寸毫も偽らざる事實を記載し且つ此機會を以て平生抱持する意見を文章化せるものなり故に此書を読んで一喜一憂する人あるは洵に止むを得ざる所なり。唯予は韓昌黎の欲爲聖明除弊事に准へて社會の爲に諸般の弊害を匡正せんとする趣意に外ならざるなり。

大正九年九月

於西大久保寓居

目次

一、緒論	一
二、海軍將校	三
三、軍艦日進	六
四、浦鹽港	六
五、大湊要港	三
六、航海中	七
七、「イスカイモルト」港及「ビクトリヤ」市	四
八、英領「ユロンピヤ」州	一

九	「シャトル」に遊ぶ	五
一〇	石炭搭載	七
一一	横須賀歸港	六
一二	勇敢なる水兵	六
一三	佐世保軍港	七
一四	南征の首途	七
一五	隠れたる殊勲者	八
一六	厨宰及主厨	八
一七	新嘉坡港	九
一八	講演を聴く	九

一九	故高橋少佐を追想す	一〇
二〇	南洋政策	一〇
二一	英船護衛	一四
二二	「エムデン」を弔す	一九
二三	印度洋の日没	一九
二四	海水の色	二四
二五	「ユロンボ」港	二六
二六	錫蘭島	二四
二七	濠洲官憲の不親切	二九
二八	商船臨検	二五

二九	「フリマントル」港及「バース」市	二五九
三〇	西濠洲の産業	二六六
三一	濠洲	二七一
三二	濠洲移民を論ず	二六八
三三	歸途	二八五
三四	休養	二九〇
三五	再び遠征	二九六
三六	黄海々戦紀念日	三〇三
三七	香港	三〇九
三八	亞丁	三二六

三九	「スエズ」運河	三三二
四〇	「ポートサイド」港	三三五
四一	佛國海軍將校	三三〇
四二	「アルメニヤ」避難民を訪ふ	三三五
四三	「カイロ」に遊ぶ	三四一
四四	任務結了	三四七
四五	下士卒の聲	三五二
四六	舞鶴鎮守府	三五八
四七	軍艦職員	三六一
四八	下士卒教育	三七二

四九 結論

六

二六一

艦上之一年

緒論

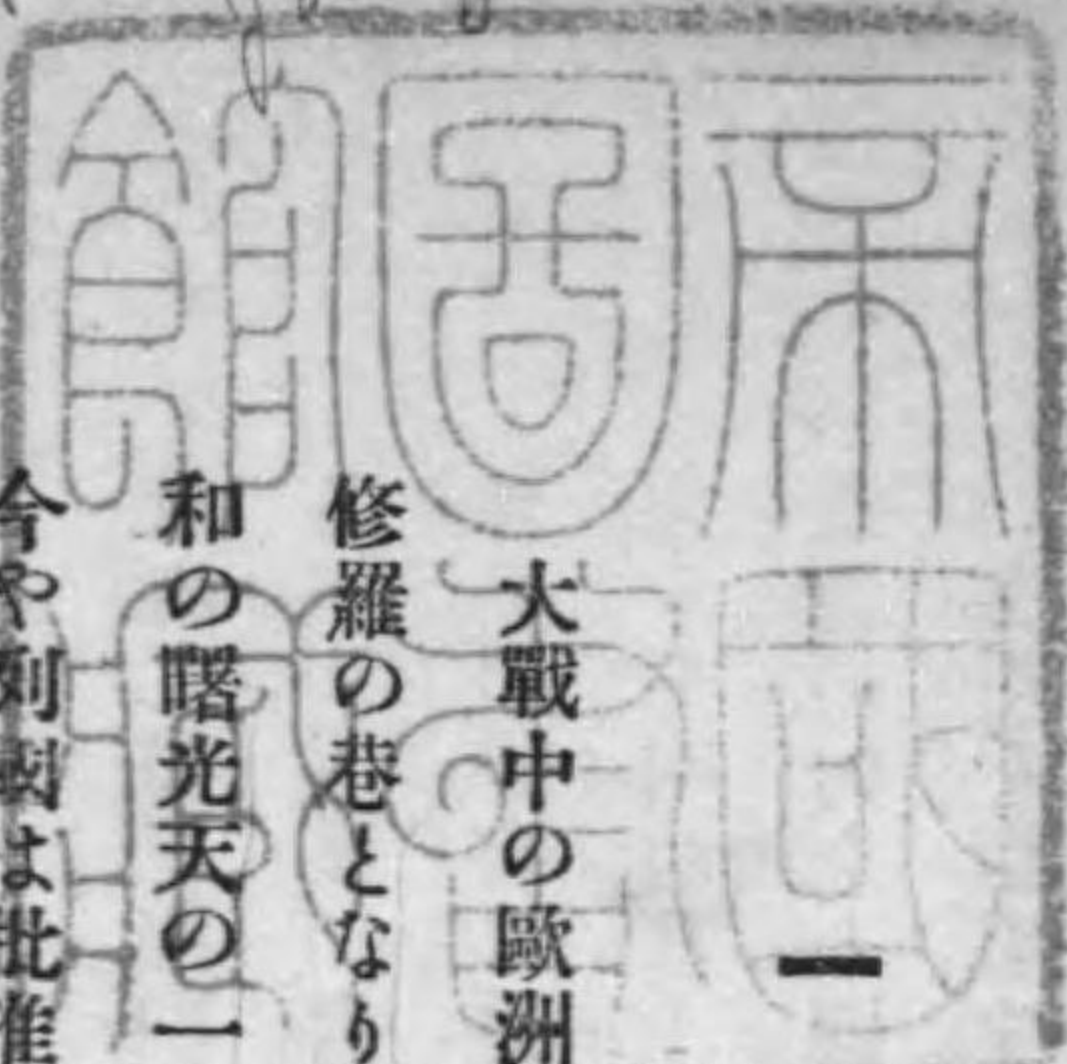
大戦中の歐洲中原は砲煙彈雨の中に肉飛び骨散るの慘狀を呈し文明の都市は修羅の巷となり無辜の良民は骨肉に別れ産を失ひ流離放浪する有様なりしが平和の曙光天の一角に現はれて以來一轉して休戦となり再轉して講和締結となり今や列國は批准交換を終りて世界は新に改造期に入りつゝあり。

我が國の改造を要するもの甚だ多し。政事家の腐敗も其一なり因襲的貴族制度の打破も其一なり軍人の舊思想も其一なり。現今社會の形成拘泥繁文褥禮衣食住の根本的改良等屈指に遑めらず。

東洋の一隅に孤立する我が帝國は東西より「アングロサクソニズム」の脅威

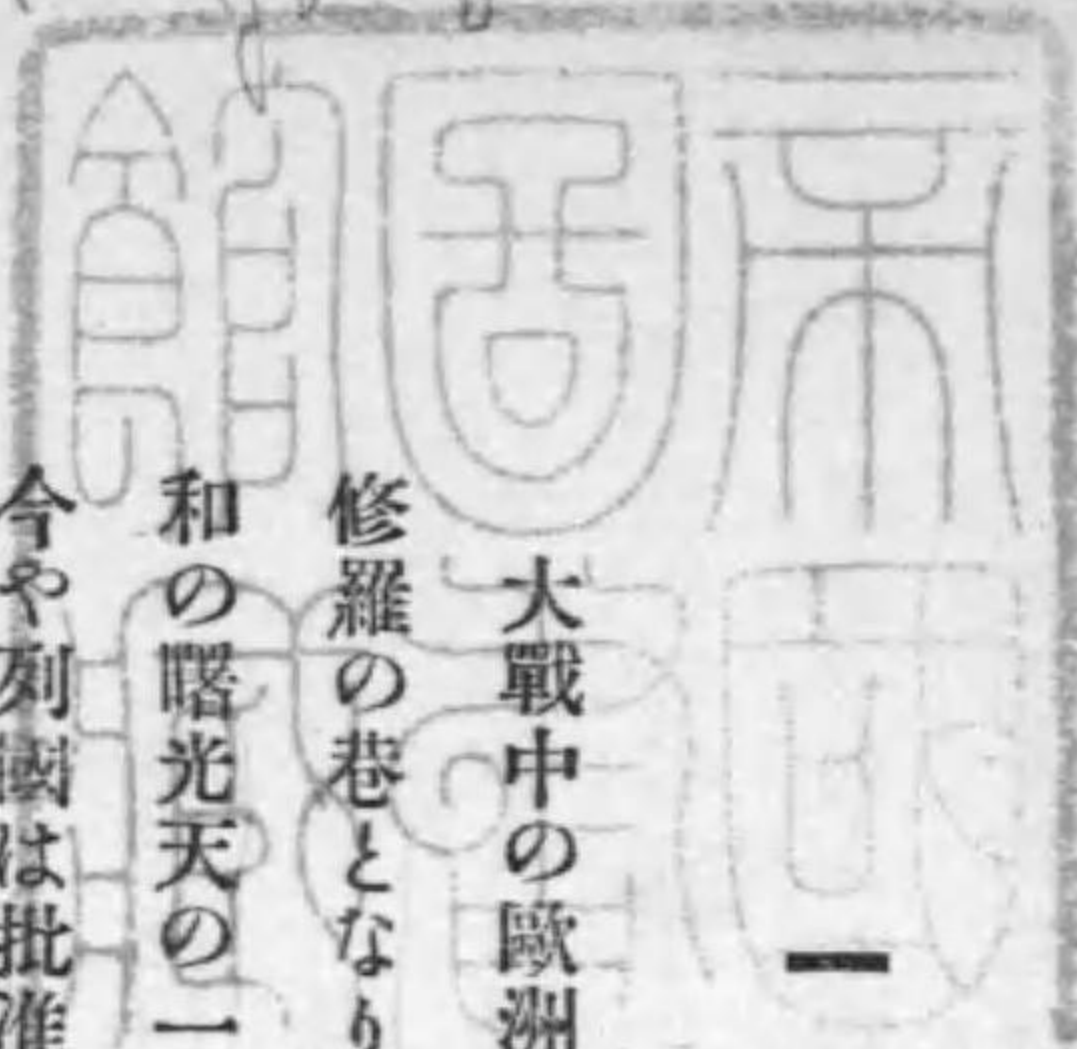
一

*mill school
from 1905
I don't want way*



*海軍省
蔵書印
昭和五年*

*middle school
from Hirose.
Solomon
I don't way*



艦上之一年

緒論

大戦中の歐洲中原は砲煙彈雨の中に肉飛び骨散るの慘狀を呈し文明の都市は修羅の巷となり無辜の良民は骨肉に別れ産を失ひ流離放浪する有様なりしが平和の曙光天の一角に現はれて以來一轉して休戦となり再轉して講和締結となり今や列國は批准交換を終りて世界は新に改造期に入りつゝあり。

我が國の改造を要するもの甚だ多し。政事家の腐敗も其一なり因襲的貴族制度の打破も其一なり軍人の舊思想も其一なり。現今社會の形成拘泥繁文褥禮衣食住の根本的改良等屈指に遑わらず。

東洋の一隅に孤立する我が帝國は東西より「アングロサクソニズム」の脅威

四九 結論

*〔手紙
志海軍
和洋文〕*

を受け政治的に外交的に悉く壓迫を感ずるに至れり。世界改造の第一歩たる講和會議に於ける折衝は事毎に彼等の威壓を受け吾が特派大使の引込的因循姑息と相待ちて提案は多く否決せられ又之を宣傳する機敏なる努力を缺き纔かに贏ち得たるものは伊國の偶然的會議脱退に原因を爲すが如き有様なり。

又他方に社會主義は天下の輿論なり。現在より將來に及び有らゆる獨立國を風靡し特權階級を威壓して常に紛擾の種子を蒔くものは此の主義たらずんばあるべからず。吾が帝國の如く言論の自由を拘束し壓迫し秘密主義を固執し階級尊崇の弊害に捉はれたるものは必ずや早晚爆發して政治上に思想上に大改革を來すや明かなり。此多事なる時に際し邦家の前途を思ふ毎に吾人は大いに政治道德の向上と國家本位の善政とを切望して止まず。

文明を指導するもの、中重要なる機關は政治なり。國家を統治し國家を經營するものも亦政治なり。是を以て國利民福を來す所以の最大要素は健全なる政

治に因ると言ふも不可なきなり。然るに政黨者が國家の休戚を度外し私慾的黨利を念とする陋態は今春に到つて極まれり。此明瞭なる事實に對し帝國の人民否選舉有權者が投票したる衆議院議員改選の結果如何。多く言ふを欲せざるなり。帝國の一般人民は政治思想缺乏し事大主義官尊民卑主義及び不道德的營利主義に捉はれたるは嘆ずべきことなり。

國家改造の第一歩は人民に健全なる政治思想鼓吹より急なるはなし。現在に於ける我が農民即ち帝國人民の六割を占むる農民の現狀は選舉權を有すると然らざるとを問はず唯米價の暴騰に狂喜して只管營利の念に駆られ土地の賣買金利の増殖をのみ事とし政治上の事件は風馬牛なり。多數黨は國家の公益を濫用し豫算の成立を妨げ年度の事業を犠牲に供して黨利を圖りつゝある暴狀をも顧みず傳統的舊習に捉はれ無氣力にして卑屈なり。

多年政界に馳驅せし衆議院議員植原氏は曰く

「我が國の政黨は利益問題を中心として個人關係を經とし情實緣故を緯とされてゐるものである。政黨に主張主義なく政黨は個人の問題を中心として組織されてゐるのと同じである。而して選舉民と政黨との關係は國家を中心とするものでなく情實と緣故を中心として警察權の亂用と官憲の干渉で鍛え上げられてゐる。有権者は主義政綱を基本とする國家の政治の爲めに投票を行使するにあらずして主として利益の提供情實緣故により甚だしきは官憲の壓迫によりて投票を左右されてゐるのである。而して議會に於ける辯論の價値なく討論審議も一片の形式に過ぎず唯黨利黨略によりて凡ての法律が決定されてゐる。之れが吾が國の議院政治の状態である。」と。

名のみ美なる立憲政治の真相にして以上の如しとせば且つ多年渴望したる政黨内閣にして今春の如き利己的野心を政行するとき國家の前途唯寒心せざるべけんや。

又曾て彼の日糖事件後の總選舉に於て其犯罪者たりし三人を再び選舉し恬然として恥ぢざりし選舉民もありたり。今日尙ほ其首魁を議政壇上に發見しつゝあるにあらずや。現今の社會は正義の觀念地を掃ひ百鬼晝行の有様なり。

由來本邦人に社會の制裁なる文字なし。先年大阪に於て岩下某の瀆職事件暴露し裁判進行しつゝある際大阪知名の實業家及び官途にあるもの數十名連署して放免を請願したるが如き聖代の一大汚辱にあらずして何ぞや。大阪實業家の正義の觀念薄弱なる唯驚くの外なし。當時岩下某は實業界重要な地位にあり輿望を擔ひて活動しつゝある公人なりしが偶々瀆職を爲し社會に害毒を流し關係者に累を及ぼしたり。此時須らく健全なる社會は鼓を鳴らして其罪を責め社會的に彼を葬らざるべからず。然るに前記の舉動に出づるが如きは彼等の神經の如何に痲痺せしかを語るものと言ふべし。又彼の有名なる「シーメンス」事件の張本人たる藤井元機關少將は多年の苦役を終り現に實業界に雄飛し自働車を飛

ばして東西に奔走しつゝあり。不健全なる社會は營利に便なれば刑餘の人たると破廉恥罪人たると少しも問ふ所にあらず。法の神聖も正義道德も彼等の前には一片の空文に等しきのみ。

之れ畢竟自重の精神足らざるの致す所にして吾が社會を病弱ならしむるの大原因なり。之れが爲め屢々歐米人より我が社會の健全を疑はるゝは顧みて大いに恥ぢざるを得ず。人民の正義自重の精神開發は固より一朝一夕に爲し得べからずや論なしと雖刻下の最良手段として教育修養を獎勵するに若くものなし。即ち現時の社會を救済するものは政變にあらず革命にあらず教育なり。

露國七割の無智盲昧なる農民は三百年間君主專政の下に有ゆる苦痛を忍びたり。而して一朝過激思想に感染するや大風に乗じて廣漠たる原上枯草を焼くに等しく階級を打破し貴族を殺戮し慘忍酷薄なる修羅道を演じたり。世に無智程恐るべきものなし。

是を以つて諸般の改造は人智の發達に待たざるべからざるは論を待たず。人智の發達は其根本主義として教育の進歩と普及とに因らざるべからず。故に吾が農民に政事思想を鼓吹せんと欲せば義務教育を勵行すると共に之を延長し且つ教員をして其國利民福を増進する第一義なる所以を解せしめ幼弱なる生徒の頭腦に立憲政治の趣旨を會得せしむるに努むべきなり。之れ改造の第一着たるものなり。然るに現時の初等教育方針は勉めて政治に遠からん事を獎勵するものに似たり。而して義務教育のみを受くるものに對し何等政治上の素養を授くる事なく又何等研究の端緒をも與へずして將來公人として選舉民として公正なる意見あらん事を要求するは無理なり。之れ偏へに舊時代の官僚的爲政治家の遺法の蹈襲にして早晚卓識なる文教の長官に仍りて改革さるべきものなり。

衆議院員選舉法は吾人現役軍人に選舉權を與へず。吾人を公權剝奪者或は公權停止者と同一の待遇を爲せり。此の一大非理不法は大正の今日尙ほ不問に附

せられつゝあり。吾人は官吏服務規律の下にある一個の官吏たるに止まる他省の官吏と何の撰ぶ所なし。唯將校分限令に依りて拘束せられ専ら軍事的業務に係はりつゝある外一個の公民として國家の義務に服しつゝあり。吾人は行政官の如く被選權を要求せず。唯國家の義務に従順なる一公民として一票の選舉權を要求する事の何故に不道理なるや。

若し吾人を特種の技術者なりと言ふものあらば之を首肯するに躊躇せず。社會の他の部に吾人を模倣すべき技術あるものなし。然れども技術者なるが故に選舉權を與へざる理由なかるべし。或は軍人は忠節を本分とし他事に拘はらず其道に慕進すべきものなりと言ふものあらば之に答へん。忠節は豈軍人の專有物ならんや。官吏たるもの然らざるもの農工商總て皆同一なり。唯吾人は職務的に特に其必要を感じるのみ。又他事に拘らず云々は官吏教育家宗教家皆然り。斯の如くして良好なる成績を擧げ得べく將來の發展を期し得べし。然れども吾

人は社會の一員として時勢の影響を免るゝ能はず。生活難は吾人に現實なる苦痛を齎らし官海游泳上の情實は吾人に三斗の苦汁を飲ましむ。斯くして斯道に向上して慕進せんこと困難なりと云ふべし。加之施政の劣悪は直接に吾人の一身上に累を及ぼすに止らず國家百年の大計を考ふる憂國の士の憤然起たざるを得ざるに非ずや。

國家は其義務に屬する收入に相當したる諸税及び兵役等の血税を容赦なく吾人及び吾人の子弟に要求し政府の惡政に反抗すべき唯一の武器たる選舉權をば之を吾人に與へず。此不公平なる規則は之れ舊時代の遺物たる惡法なり。須らく國家改造の序幕に改良さるべきものなり。

世界文明國の何處に現役軍人特に智識階級たる將校より選舉權を剝奪したる所ありや。蓋し壞滅前の獨逸帝政は唯獨り之を剝奪せり。而して其結果や今日の如し。佛獨の勝敗の原因たるや士氣の振否にもあらず武器の精鈍にもあらず

兵數に多寡にもあらず。唯之れ時代なり。時代の思潮に順行すると逆行するにあり。即ち專政壓迫に對し自由平等の勝利なり。強制秘密に對し自發開放の勝利たるなり。

今回の歐洲大戰に於て忠國旗愛國家の念は文明國の人民に多くの差異を認めざることを證明せり。唯自發自覺の精神に於て差異あるを見るのみ。滔々たる時勢の流に逆ひ兵を機械とし正義を無視したるものは敗れ然らざるものは勝ちたるなり。

衆議院書記官中村藤兵衛氏は本年四月此件に關し左の解釋を下せり。

「軍隊に於ては命令服従の關係を尙ふものなるに若し之に選舉權を與ふる時は自ら此關係を破る虞あるのみならず政治に容喙する端緒を啓くの虞あればなり。」

軍隊に於ける命令服従關係は選舉權を與ふる事により何故に破壊さるゝや怪訝に堪えず。同氏は如何なる根據により如上の解釋を下すや揣摩すること困難なり。軍規的命令服従關係を圓滑ならしめんとせば軍人に下賜されたる勅諭の旨趣を奉體し服膺し且つ之が實行に際して千百の障礙に打ち克ちて猛進すべく其精神を鍛練修養する事により得らるべし。是に於て軍務施行の際上官の下したる命令は下級者の喜んで服従する所となるなり。然るに選舉權は現行法律の規定により帝國臣民たる男子にして年齢及び納税額に適合するものは已むを得ざる例外を除き當然有すべき特權なり。即ち前者と全然系統を異にし脈絡關係を別にせるものなり。今之を行使する時寸毫も軍規に悪影響を及ぼすべき理由なし。或は同氏は軍務と他事との關係及び公私の區別を混用せるにあらざるやを疑ふ。軍務に對して命令は絶對なり。又服従は必然なり。然れども他事に關しては其權利義務なき事尙ほ公務と私事とに於けるが如し。

次に政治に容喙する端緒云々は實に時代錯誤の甚だしきものなり。大正の今

日を以て平安朝時代に比較せんとする愚論なり。立憲代議政治の下に於ける公民は根本義として自己を代表する代議士を選挙する権利を有するものなり。

軍艦日進に於て前年十二月より大正六年の終日に到る一年間の行動は本書に詳記せし如く日本國內支那朝鮮に於ける巡航に非ずして北は浦鹽港に堅氷を碎き東は北米の加奈陀に濃霧を冒し南は濠洲に蠻煙瘴雨を探り西は印度及び馬來半島の苦熱を凌ぎ尙ほ進みて敵の潜水艦出沒する地中海の咽喉たる「ボートサイド」を訪れ一年間の航續裡數四萬五千湮石炭を消費する事約一萬噸之れ帝國軍艦の過去に於ける記録を破りたるものにして空前の大航海と云ふべし。

吾人が一年間海上に浮び艦上の一隅より觀察したる天下の形勢に對する感想批判にして若し此世界的改造の趨勢に貢獻する所あれば著者望外の榮譽とする所なり。

二 海軍將校

社會の隠れたる裏面に海軍將校なる一團あり。予は敢て隠れたる裏面と云ふ何んとなれば海上に浮べる軍艦驅逐艦なる怪物上に起臥し平時は暴風怒濤と戦ひて演習訓練に従事し戦時は其經驗技術を傾倒して勝敗を五分間に決せんとす然れども一切の政治に拘らず活社會とは殆んど没交渉の状態に立つ。之れ即ち裏面にあると云ふ所以なり。此社會は極めて狹義なる國家主義の外之を口にするもの之を筆にするものを威壓する傾向ありて自ら活動の範圍を縮少し努めて世の進歩的思想に觸れざらん事を欲せり。昨年彼の波多野大佐の吳工廠に於ける口禍事件の如きは殆んど兒戯に類したるものなりと思ふ。

吾人の聞く處によれば同氏は吳市尋常小學校の評議員會に於て吉村主理が同校教員を伊勢大神宮に派遣して敬神の思想を涵養せんと主張するに反對して教

育と宗教との區別を力説し其無用を唱導せしが其間に多少舊式なる敬神思想に反したる言説ありしなりと言ふ。然れども場所は小學校なり資格は一個人なり而して海軍の本職に何の關係もなし。之に對して當局者は再三訊問をなし遂に其職を奪ひ其事件の内容を秘密に附して發表せず。世人をして之に批評を加ふるの餘地なからしめたり。

氏は火藥學者の權威にして多年此研究に従事し蘊蓄甚だ深く海軍は如此特殊の研究者を渴望しつゝあるにも拘らず此些々たる理由に仍り待命となせり。請ふ見よ。軍艦筑波及び河内の爆發は吾が貧弱なる海軍に多大の損害を蒙らしめ之が犠牲となりたる幾多の忠勇なる將士の悲惨なる最後の狀を追想すれば吾人の襟邊今更の如く粟立するを感ず。而して河内の火藥爆發の原因は一年に互る査問會を開き委員長たる某中將以下幾十の將校技術官を網羅して探究せしも精確なる事實を摘發し得ずして解散せり。筑波も亦然り。此件に關し當局者は何

を以て天下に謝せんとする乎。然るに火藥研究者の權威を排斥し去り將來災禍を未然に防止する爲め具體的の案を作り得ずんば軍艦の生活をして噴火山上の住居と同一ならしむるを如何せん。

波多野大佐の懲罰施行に際し吳工廠長が作製したる懲罰言渡書は頗る不得要領なり。曰はく「大佐は人をして誤解を惹起せしむるが如き言語を發したるものと認む」云々と。人を誤解せしむるが如き言語を發せしは重大なる懲罰謹慎三十日に値すべきや。誤解せりとせばそは誤解せしもの、罪にして波多野大佐の罪にあらざるべし。尙ほ職務外なる小學校に於ける一個人の思想の發動たる言語として同情すべきものあるを認む。

思想は傳染病的に非ずして性慾的なり。之を善導すべくして防遏し得るものに非ず。又之を強ゆべき性質のものにあらざるなり。之を臭蓋的に葬らんとするも漏るゝ尙早かるべく之を局部に制限せんとするも恐らくは堰き止むる手段

なかるべし。若し之を強ひて防遏せんとすれば表面的に一時を糊塗し得るのみ。其餘弊として活動力を阻害し進歩を停止すべし。青年將校は宜しく諸般の思想に觸れ之を玩味し之を研究し而して後理性と識見とによりて之を批判し之を選すべきなり。

海軍將校は之を分つて兵科及び機關科となし前者は海軍兵學校卒業者を以て補充し後者は海軍機關學校卒業者を以て充てらる。將校の外に軍醫主計造船造機造兵水路及び藥劑等の諸官あり。一般に士官と稱せらる。此中軍醫と主計は軍艦其他の艦船に配乗し諸般の役務に服するも其他の士官は全然陸上勤務にして艦船に配乗せず。

兵科將校は海軍々人の主腦にして常に各級指揮官たり。軍令承合は大將より順次少尉に至るものにして其間に他科の將校士官の介在するを許さず。

獨立の任務に在る軍艦に於ては兵科將校たる艦長最高指揮權を掌握し以下順

次局部の指揮命令を分掌す。即ち航海術砲術水雷術運用術通信術及び各砲臺の指揮整理教育及び能力研究等に從事し其進歩發展に努力しつゝあり。

機關將校は艦内機關の使用保存を掌り機械罐及び補機の三部に分れ各所掌を完備し艦の全力駛走に支障なからしむ。又艦の工業を分掌し其能力の進歩に勉め常に各部の保存手入教育燃料の管理及其能率研究等に没頭して戦闘の際全能發揮に努力しつゝあり。

三 軍艦日進

軍艦日進は伊太利國は「アルゼンチン」共和國の依頼に應じ明治三十五年三月二十九日「ゼノア」に於て起工し翌三十六年二月九日進水したる原名「モレノ」なる一等巡洋艦にして左の要目を有す。

排水量 七五〇〇噸
艦材質 鋼
全長 三六六呎六吋
最大幅 六一呎五吋
吃水(平均) 二三呎五吋
速力 二〇節
石炭庫量 一一〇四噸

617.66
11

11/20

甲鐵ノ厚サ(水線甲鐵帶)
前部 三、五吋
中央 六吋
後部 三、五吋
機械 直立三汽笛三段膨脹機械
汽罐 艦政本部式
大砲 四五口径安式二〇糎 四門
四五口径安式一五糎 一四門
四〇口径安式七、五糎 一〇門
發射管(水上伊式) 四門
探照燈(七五糎)ソ式 四個
バ式 一個

明治三十六年の末日露兩國の折衝漸く急を告げし時我帝國は軍艦春日と共に「アルゼンチン」共和國より購入し日進と改名し明治三十七年一月九日「ゼノア」發同二月十六日横須賀に着せり。後吳に回航して艦裝に着手し四月六日吳發出征し第三艦隊司令長官片岡中將の麾下第五戰隊に編入せられたり。斯くして帝國海軍は新に一勢力を加へたるなり。日露戰役の當初に際し我が封鎖艦隊は不幸にして初瀬、八島の二大戰艦を失ひ吉野は沈没し宮古は爆沈せし時戦地にありし各將士の失望落膽甚だしかりしが偶々日進春日の二艦新銳の武器を載せて戦線に在るを思ひし時一點の光明希望の彼岸を照らしたるを感じたりき。其後果して此の二艦は分派され主砲の長射程を利用し旅順港内に有效なる間接射撃を行ひ籠城者の膽を寒からしめたり。

八月十日には第三艦隊司令長官片岡中將の旗艦として主隊と共に行動し六隻編制の殿艦として樞要なる位置にあり。反轉して逆番號となりたるときは先頭に位置して隊を指導し従つて敵彈を蒙ひる事甚だ多く當日午後七時敵の巨彈後艦橋に爆裂せし時の如きは艦隊機關長齋藤機關大監、參謀松本少佐、横山大尉副官高橋少佐及び筆記長一名准士官下士卒六名を斃し中九名は全く遺骸を留めざるの慘狀を呈せり。之が爲め南下逃走を企てたる敵の主戰艦隊を阻止し「ツエザレウイツチ」の膠洲灣に「アスコリツド」の上海に「ダイヤーナ」の柴根に其の外驅逐艦六隻を逸したる外敵の總艦をして旅順に引返すの止むを得ざらしめ其陥落と共に全滅するに至らしめたる功績は偉なりと云ふべし。

五月二十七日日本海々戦には第一艦隊三須司令官の旗艦として主隊の中に編入され専ら敵の主力に對し第一日に「スワロフ」「アレキサンダー三世」「ボロヂノ」「オストラビヤ」等の戰艦を撃沈し第二日に「アリヨール」「ニコライ一世」「アブラクシン」及び「セニャーヴキン」を捕獲し二晝夜に互りて激戦し遂に空前の大捷を收め帝國の國威を宣揚し海軍の名聲を揚げたる事甚だ大なりき。

始め日露戦役の第一期旅順方面の作戦に於て初瀬八島の大戦艦を喪失せしかば六隻編成の單位を充實し主隊の威力を補充せんが爲め日進及春日の二艦を編入されたるなり。此の二艦は是に於て當時に於ける權威として認めらる。而して其當日は前述の如く奮闘し主隊の中にも三笠に亞ぎて功勳ありしは衆目の指す所なり。

同年七月第十三師團を掩護して樺太「コルサコフ」方面に行動し又偵察及び威嚇の爲め露頭黒龍沿岸州に向ひ目的を達して樺太「アレキサンドロフスキー」に歸れり。

日獨戦争開始さるゝや始め土屋第三艦隊司令官の麾下にありて上海香港の通商保護に任じ又英國支那艦隊司令官「ゼーラム」中將の令下に入り新嘉坡「ボルネオ」及び「ジャワ」方面敵艦搜索の任務に服せり。後第二南遣枝隊に合し松村司令官の麾下に入り南洋占領地一帯の警備に服し又「フイデー」島及び

「ニュージーランド」方面の警戒に任じたり。

軍艦日進の戦歴は實に赫々たるものなり。此名譽ある軍艦の記念軍艦旗を見よ。彈痕四裂焼斑點々として當時の激戦を回想せしむ。記念軍艦旗とは日本海海戦の當時本艦の斜桁に掲げたりしものなり。

毎年の海軍記念日に本艦は此記念軍艦旗を艦尾の旗竿に掲ぐるを例とす。乗員之に對すれば肅然として襟を正うし先輩が勇戦の跡を追想せざるはなく満身の情氣忽然として一洗せられ嚴として恰も秋霜の嫩草に臨むが如し。旗は破れたれども色は鮮明なる眞紅なり。吾人が耿々たる報國の丹心須らく此旗と色を競はざるべからず。毎年五月二十七日後甲板に於て嚴肅なる記念式を施行し其當時先帝陛下が聯合艦隊司令長官東郷大將に賜はりたる勅語を捧讀する毎に今更の如く驚馬に鞭ちて吾が海軍の光輝ある過去の名譽を維持する爲めに責任の重加されたるを感ずるなり。

本艦は排水量に比して備砲大にして多く防禦力亦頗る優勢なり。且つ航續力大にして凌波性に富めるを以て専ら戦闘に従事すべく建造されたるやの感あり。然れども天は同時に二物を與へず。攻防二方に秀でたる本艦も平素の生活に於ては他の一等巡洋艦に比し遙かに遜色あり。公私室の狹隘にして且つ室數少きは勿論倉庫浴室便所其他一般に狹隘にして且つ不便なり。又比較的進水年月の後きに拘らず水雷科及び機關科に屬する諸兵器は舊式にして効率少く駸々として止まざる時世の進歩に遅れたるの嫌あり。且つ中甲板の大砲は荒天の日潮水侵入の爲め使用困難なり。然れども計畫艤裝共に我が海軍將校に由つて爲されたるものに非るを以て已むを得ざるなり。

高く聳ゆる單檣の前後に大なる二本の煙突を有し其長さに比して幅の比較的大なると左右舷に突出したる十五糎砲の優勢なるとは之れ本艦の風采なり。此異様な風采は亦異様な特色を有す。他日東亞の天地に戰雲漲り帝國の艦艦

想定の戰場に馳驅する時本艦は其噸數に比例せずして其以上の活動を爲し得べきを信じて疑はず。

四 浦鹽港

軍艦日進は特別任務に従事すべき命を承けたりしは大正五年十二月十一日なり。當時本艦は年度の初頭に修理の豫定にて第二豫備艦たりしを以て乗員は減少し且つ半舷の兵員は航海休暇を得て故郷に歸省しつゝ、ありし際なりしかば先づ電報を發して休暇員を召集し又需品の搭載及び寒防品の充實を爲し同時に士官以上の幹部は續々として補充され數日にして全く出動の用意を完成せり。

十二月二十日軍艦薩摩と舳艫相接して舞鶴を出航し浦鹽港に向へり。當日朝來晴天なりしが北進するに従ひ寒氣漸く加はり翌日の夜の如きは甲板上海水の飛散する所總て皆氷柱氷塊と化し無線電信空中線は直徑約二吋の氷棒となり遂に其重量に堪えずして切斷し艦首八吋砲は氷層甚だ厚く遂に兩砲相連續し之に稜々たる氷柱を下げ宛然「サンタークロス」の白髯の如し。舷側「スタンシ

ョン」及び「ハンドレール」は枯木ならぬに氷の花を飾り前甲板は一面の氷原と化し之に覆ふに約五寸の粉雪を以てし凄愴の狀形容の語を知らず。此の狀態にて本艦は午前十時徐々として浦鹽港に進入し内港の浮標に繫留せり。

本港は舊時支那領たりし時海參威と稱せしが千八百六十年露國の有に屬し次で軍港となり西比利亞鐵道の開設さるゝに及んで益々本港の價值を増すに至れり。而して現在は露國が極東に有する唯一の軍港にして内港は長さ約三哩幅約半哩水深十二尋乃至六尋底質泥にして最良の避泊地たり。而して該灣は之を兩分し「アドミラル」埠頭の以東を軍港とし以西を商港とす。夏季は空氣多少濕潤なれども冬季は極めて乾燥す。颶風は當港に達せず然れども夏季と秋季との中間に於て颶風日本海に發生したる時其左半圓は同港に感じ其方向東より北を経て北西に變ずるを常とす。

北方より來る「リマン」海流と南方より來る黒潮とは此附近に於て會合する

を以て霧は當港に於ける名物なり。概ね四月に初まり五六七の三ヶ月間は多次に發生し特に七月は最も多く濃霧の日數平均十五日薄霧の日數平均八日なり。而して此三ヶ月間殆んど霧ありと雖午前十時より午後四時迄は晴るゝを例とし十月より翌年三月迄は殆んど霧なし。

約六十年前には少數なる滿洲人の居住なりしが開港と共に年々發達したりも東清鐵道の滿洲に敷設せらるゝや極東に於ける政治上及び軍事上の中心は旅順に經濟上の要地は哈爾濱に變じ本港は其の發展上打撃を蒙るに至れり。其後日露戰役を経て再び本港の繁榮を恢復し今や西比利亞第一の都會たるに到れり由來東部西比利亞の地は鑛物に富み就中「レナ」流域の砂金の如きは一億三千貫以上に及び其他銀銅鐵鉛亞鉛白金石炭及び各種の寶石等豊富なるを以て資力あるものは概ね鑛山に投資し且つ輸入工業品の比較的低廉なる爲め製造工業をして萎靡奮はざらしむ。漁業は稍々發達し其捕獲品の重なるものは鱈鯨海參

蟹青蝦及び昆布等なり。

吾人は明日の上陸視察を豫期しつゝありしに其夜は寒氣特に甚だしく上甲板にありし寒暖計は華氏零下八度を示し甲板上の水罐及び水管は勿論鐵製の器具電池油類等豫め防寒装置を施しあるに拘らず皆凍結して使用に堪へず且つ海水悉く凍りて汽艇を舷側に近くべからず。翌朝之を見れば本艦は氷山の上に坐するが如く氷層の厚さ六吋許にして艦外の交通一切斷絶するの止むを得ざるに至り此狀況は出港の時まで繼續し日を追うて氷層の厚さを増すのみ。遂に吾人は陸上視察の機を得ずして了りぬ。

當直將校たる吾人の武装を見れば恰かも白瀬陸軍中尉が南極探險の服装と異なる所なし。顔面を寒風の晒せば忽にして髯に氷塊を作り眉毛は凍りて引き吊らるゝ如く上甲板上四時間の勤務は出來得る丈けの保護を盡したる足指の寒氣に堪へ得る最大限度なりき。尙甲板に於ける錨の作業に至りては之を恐らくは

難事中の難事と云ふべし。之れが爲め本艦は凍傷患者卅名を生じ若干名を入院せしめたり。蓋し浦鹽今年の寒氣は例年に比し早來にして又最も激烈なりしと云ふ。而して現在海軍に於て使用しつゝある防寒具は到底此酷寒の地に使用され得べくもあらず。若し將來作戰上此季節に此地方に於て行動せざるべからざる事あれば防寒具として當地方に於て露國人が使用しつゝあるものゝ實質と形狀とを學ぶ必要あるべし。

翌日は北米加奈陀「イスカイモルト」に持ち行くべき金塊約一億留の積載に忙殺せられ夜を徹して作業せり。此時局に當りたる露國大藏省の官吏某が貨物授受に際し書類と現物と符合せざるの故を以て吾が責任將校の詰問に合ひ小過なる語を以て應答し少しも意に介する様なく以て大國民的襟懷を表示したるは流石は露國人の廣量欽すべきが如くにして實は彼等の用意周到ならず一旦緩急ある時百失曝露し引いて敗軍の原因を爲すが如し。例へば日本海々戰に於て大艦

隊を提げ萬里の航程を踏破し來り吾が戰に勝ち士氣昂れる艦隊に對す、巧妙なる戰術と完成せる訓練とを以てするに非れば勝利を得る事能はざるは明瞭なる事實なり。然るに露國は敢て之を決行して怖れず盲目蛇に怖ぢざるの謂乎。否此處にも亦大國民的襟懷を發露せしなり。

五 大湊港

軍艦出雲艦手及び日進は第一艦隊に附屬したるまゝ、特別任務を帯び司令官竹下少將の下に一箇戦隊を編成し北米加奈陀「イヌカイモルト」に向つて行かんとし途を北方に採り途中石炭搭載其他の航海準備の爲め先づ大湊要港を訪問することゝなれり。

大正六年一月十日午前八時旗艦出雲を先頭とし艦手之に續き日進は殿艦として舞鶴軍港を出づ。當日天氣晴朗なりしを以て港外に於て各艦單獨に自差修正及び測定を爲し正午沖島の東方に相會し豫定の針路を以て北進せり。午後一時を過ぐる頃より北西の強風吹き來り午後三時に於て風力八乃至九怒濤舷側に激し甲板を超えて反対側に出づるものあり。前甲板は常に急湍渦を巻き錨鎖を衝き揚錨機に激して物凄し。時を経るに従ひ風力増加し晴雨計は急降し天候漸次

險惡の徴を表はせり。本艦は移動物を固縛し昇降口の防水扉を閉ざし波濤洶湧の中を轉々として進む。日漸く暮れんとして風力益々強く風向艦隊の左舷正横なりしを以て各艦皆横動甚だしく出雲は遂に救助艇を波浪に没はれたるを認む。前甲板の如きは絶えず激浪の奔流に任せありしが本艦も遂に前甲板に釘着しありたる鋼線絡車を鋼線と共に奪はれたり。此暴風は二日間連吹して乗員を惱ませしが十二日の太陽水平線上に現はれし時拭ふが如く止み只長濤去來して昨日の名残を留むるのみなり。十二日拂曉我艦隊は津輕海峡に進入し同日午後大湊に入港せり。

大湊は予が大正三年を通じて一年間勤務せし地にして最も思出多き所なり。此地は帝國北門の海軍要港にして當時司令官たりしは上村行敏少將なりき。司令官は大正二年十二月赴任し大正三年十二月水路部長に榮轉されたり。上村司令官赴任後銳意部下諸隊に教育の進歩を計り親しく草靴を穿ち五尺の積雪を踏

破して防備隊の防禦方面を巡視し或は附近村落の人情風俗を視察し或は大間尻矢等に海軍關係の諸設備を調査し寧日なく奮勵せられ成績大に發揚せり。又内にありては勤儉尙武の思想を獎勵し上下親和の美風を鼓吹し恩威並び行はれ徳望部内に普く士卒皆信服したり。

大湊は廣大なる陸奥灣の北東隅に位置し地甚だ偏僻なりと雖も帝國北門唯一の海軍根據地にして津輕海峽の如き重要な海峽を扼し北海道樺太及び千島沿岸の警備に當るを以て要港部司令官の任務甚だ重大なり。

内港は廣からずと雖も驅逐艦の多數を收容して尙餘りあり。水深亦適當にして港内は常に風波靜穩なり加之風光明媚にして山青く水清し。芦崎の白砂青松長く海中に突出せるは丹後天橋の景を側面より觀るが如く冬季港の背面なる釜伏山の白雪皚々たるは石川丈山の白扇倒懸の詩を北海の天に觀るが如し。天晴れて氣澄みたるときは官舎の座敷より四時雪を戴く八甲田の高峰天に聳ゆるも

のを遠望し得べく月明の夜裏の丘陵に登れば陸奥灣の廣茫限りなき靜波白銀を碎き能く北地に見る無限の靜寂を感ずべし。

此地物産豊富にして蕨の如きは附近の山野に無盡藏に簇生し菌類亦多種多産にして味美なり海の幸も之に劣らず。一竿を携へ海濱に踞して大公望を眞似ぬれば時ならずして銀鱗籠に充ち日の没するを知らざることあり。唯鐵道の敷設なきを以て交通頗る不便にして冬季の如きは屢々副食物に差支ふることあり。然れども之れが爲め土地の人情淳朴にして少しも輕佻浮薄の惡風輸入されたるを見ず。

冬季に於て積雪數尺に達すれば「スキー」を穿ちて釜伏山の中腹に登り之れより滑下し來る壯快は寒國男子の特有する所なるべく又積雪漸く解け春風面を吹きて新緑萌え出づる頃は數月間雪中にのみ行動し路傍も庭園も總て雪に倦みたる目の一陽回春の情を感じて爽快を覺ゆること是れ亦經驗なき人の想像以上

なり。

大湊の北方三里に恐山あり。此山は地獄極樂と温泉とを以て有名なるのみならず亦紅葉の名所なり。道険にして老幼婦女の登山に困難なりと雖山中谷あり岩あり溪水此間を流れて潺湲たり。而して紅葉幾百本此溪谷に臨み今を盛りと秋の装を飾れる様は艶麗比ひなし。進むに従ひ老樹蒼鬱千古斧鉞を加へざるもの、如く幽邃にして殆んど人跡を絶ち山静如大古の感を覺ゆ。山上には古刹あり。所謂血の池なるものあり。又硫黄泉ありて四時浴客を絶たず。

大湊に於ては炭水の補充及び糧食を搭載し一月十五日愈々加奈陀「イスカイモルト」に向け出發せり。

六 航行中

大湊を出てより二日間は静穩に過ぎたりしが三日目より漸時荒天たらんとする徴候を表し來たりぬ。晴雨計は降下して最低二八、九二を示せり。風力漸時増し來り海面暗澹として雲形模糊たり。夜に入りて風雨甚だしく激浪山を築き怒濤天に押し橋桁に激する風聲は鯨鯨の吼ゆるが如し。本艦は縦動に加ふるに横動を以てし其最大傾斜片舷四十度を算するに至る。本艦の砲門は波浪に對して水密の度甚だ薄弱なり。之れが爲め中甲板は砲門よりの浸水と通行の爲め開きある昇降口より入り來る海水の爲めに夜を徹して防水及び驅水作業するの止むを得ざるものありたり。澎湃たる太平洋の巨濤の襲來に會へば羅針艦橋にありて當直將校たる吾人は屢々全身海水を浴び羅針儀に身を託して纒かに顛倒を支ふる有様なり。舷側を打つ狂瀾昇降口より流の如く侵入すれば公私室の床上川

をなし室内の机は倒れ椅子は覆り書類は散亂して其狀悽慘なり。然れども若年の卒を除けば概ね多年海上勤務に慣れたるものなれば此の荒天に際し逆捲く激浪を物ともせず危険に暴露して働作し大に頼むべきを示せり。

本艦の賄所は總て上甲板に位置するを以て其翌日早朝より炊事する事能はず
 總員乾麵麩を喫し水を飲みて饑渴を醫するの已むを得ざるに至れり。

此狀況は翌日廿日夜に入りて少しく輕減されたれども其恢復の狀遅々として進捗せず遂に約五日間に互り荒天の中にありたり。今回の北太平洋に於ける暴風は實に明治三十七年本艦艦裝成りてより曾て遭遇したる最大のものなりしと云ふ。其傾斜の度よりするも其防水の努力よりするも本艦に於ては未曾有のものなりしなり。

前途は遠し。太平洋は世界最大の海なり。時節は冬季にして緯度高ければ最も多く荒天を豫期せざるべからず。果して一月廿九日再び颱風の來襲に會ひ頗

る困難し前回の如く防水驅水し三日間の後纔かに平常に復する事を得たり。

「イヌカイモルト」入港の數日前より濃霧に閉され咫尺を辨せず。晝間に於てさへ前續艦を辨別する事能はず。夜間は探照燈を點じて互に位置を告知し或は汽笛を鳴らして相警しめ隊内の通信には無線電信を使用せり。

予は是に於て日露戰役の際春日吉野の衝突を想起して慄然肌に粟を生ずるを禁ずる能はざりき。時は明治三十七年五月十五日其當時予は少尉にて春日に乗組み千歳を旗艦とし吉野之に續き春日又之に續ける混成艦隊を編成し旅順港外の哨戒に任じつゝありしが午前一時四十分突然大音響と共に艦體に激動を感じ釣床より抛げ出されたり。予は咄嗟に思へらく之れ本艦は機械水雷に觸れたるなりと。走つて上甲板に出で始めて吉野との衝突を知り予が受持の第一快艇に指揮として溺者の救助に赴き濃霧の中より春日の探照燈に依つて海面を見れば數十人の溺者水上に頭部のみを現はし大聲疾呼救助を求めつゝあるを見る。予

は舵手に命じて其中央に突進せしめ舷側に近きものより順次に救助せしと雖當時潮流激甚にして且つ溺者の疲勞甚だしかりしを以て之を艇内に引上ぐるに比較的多くの時間を要し予は更に一回轉して來りし時僅かに數人を見しのみ。其餘は悉く潮流に押し流されたるなり斯くして一時間の奮闘に漸く十三人を收容して歸艦せしが之れが爲めに吉野幾百の乗員は災厄の犠牲となりて長き恨を黄海の波の底に留めたるなり。

廿一日間の此航海を通じて後甲板乾燥して諸運動を爲し得たる事僅に三四日に過ぎず。其他は常に舷側に衝擊する波浪の飛沫甲板上を濡して通行するさへ容易ならず。又毎日午後一時に正午の位置信號を爲す爲め天測を完全に爲し得たる事二回のみ。其他は悉く曇天雨天或は亂雲彌蔓して天日を覆ひ或は霧生じて太陽を隠すなど快晴たりし事殆んどなかりき。

本艦の無線電信機は此長航海を通じて空電の激しき時或は北米沿岸の無線電

信發信の爲めに甚だしく混信されたる時を除けば船橋電信機の新聞電報を受信する事を得母國に於ける諸般の出來事及び外交戰亂の重大事件を聞き大に乗員全般を慰藉したり。是れ本航海に於て下士卒に與へたる最大の慰樂なりき。

本艦隊は初め石炭節約の爲め八節を以て航進せしが中途に於て九節とし目的地接近するに及び更に十節となし三月五日夕方「イスカイモルト」港外に到着し其翌日早朝港内に進入して投錨せり。

七 「イスカイモルト」港及び「ビクトリヤ」市

「フィリッピン」諸島の東方に起りたる黒瀬川は濃藍の色を湛え高温を保ち北上して臺灣琉球諸島を浸し日本南岸を洗ひ更に北東に折れて北太平洋を横斷し其盡くる所北米洲加奈陀の南西岸「ブンクラーバー」島の南端に「イスカイモルト」なる海軍要港あり。南方は開放して「ジュアン、デ、フカ」海峡に向ひ他の三面は陸を以て圍まれ水深適當にして良好なる避泊地たり。港内廣からずと雖一も障害物の航行碇泊を妨ぐるものなく四方の連山樹木能く繁茂して景勝に富める港なり。此の所に英國海軍は要港部司令官「ストーリー」少將の麾下に「レーンポー」「シャーオーター」等の砲艦を配し防備隊の如き兵營を設備せり。

當地は緯度の高さに比し温度低からず。今回の碇泊十九日間に於て最高華氏五十五度最低二十八度平均四十二度乾濕の差は平均二度附近にして三度に達せ

し事極めて稀なり。故に一般に空氣濕潤層積雪常に天を覆ひ碇泊期間晴天の日僅かに五日に過ぎざりき。之れが爲め當地は癩麻質斯患者甚だ多しと云ふ。又屢々降雪あり。二十二日の如きは積雪八時に及び當地方人の言に依れば近年稀なる降雪なりしと云ふ。風向は一般に北にして其力常に一乃至二、殆んど碇泊期間を通じて強風なかりき。

要港の對岸丘陵の上に「グリーンハウス」と稱する英國富豪の邸宅あり。一日之を訪ふ。門に入り晝尙暗き杉木立の間を行く事數町にして壯大華美なる家屋あり。庭園は屋の周圍を繞り全部日本流の趣向にして築山あり。瓢池あり。風流なる石橋苔蒸せるに小逕等昔の大名邸の庭園を見るが如く思ひ掛けざる眼の保養を爲せり。

「イスカイモルト」は市街を爲さゞれども本港の西約五哩に「ビクトリア」市ありて「イ」港より電車の便あり。「ビ」市は「コロンビヤ」州の政廳のある所

にして「ワンクートバー」島の東南端に位し市街繁華物資の供給豊富本島第一の商港たり。港内狭小にして淺灘起伏し良港と稱し難しと雖航用品の供給容易なると其位置恰かも「ジュアン、デ、フカ」海峡の咽喉を扼するが如きを以て附近通行の船舶殆んど寄港せざるはなく従つて之に應ずる港内の改良は漸次計畫實施せられ日進月歩の域にあり。内港は幅八〇〇呎最低潮水深二〇乃至二三呎にして吃水二〇呎長さ三五〇呎の船舶出入する事を得。尙「ソント」角附近は當時浚渫中なりき。州政府は過去數年間に内港の浚渫及び擴張に巨資を費したる結果今や多くの寄港船舶に對し各種の要求に應じ得る状態にあり。

本港は北は「アラスカ」南は北米の沿岸、遠く濠洲亞細亞亞弗利加及び更に「バナマ」運河を経て「ニューヨーク」歐洲諸港と便船あり。人口は千九百十六年の統計に依れば五〇、〇〇〇人なり。市街は能く整備し大廈高樓尠からず、郊外には公園多くして市の美觀を添へ衛生状態は最も良好にして一千九百十五年

の調査に依れば市民の死亡率千分の七、八にして加奈陀諸州中第一位の健康地なり。

當地在留の日本人約三十名獨立に商店を經營せしものなきに非れども規模小なり其多くは旅館料理店の給仕人割烹或は其他の労働者にして知名のものなし。軍艦に供給する糧食の如きも在留の日本人をして之れを爲さしめ以て彼我便利を得し事大なりき。

當地に於て聞く處に依れば在留民中無職にして怠惰なりしもの大部分は今回義勇兵に應じて歐洲の戦線に派遣され聯合國の爲めに砲烟彈雨の中に奮闘する事となり加奈陀官憲に好感を與へ兼ねて健全なる在留民の爲めに禍を轉じて福となせりと云ふ。

八 英領「コロンビヤ」州

茫々たる太平洋を隔て遙に本邦と對向する加奈陀の西岸なる英領「コロンビヤ」州は本邦との貿易に於て重大なる價值ある位置にあり。而して彼我の貿易は年を追て盛大に向ひつゝ、あれども尙ほ大に發展の餘地あるを認む。本邦より重なる輸出品は茶、穀類、食料品、砂糖、絹物、陶磁器等にして彼の主なる輸出品は小麥粉、木材、鹽魚、罐詰等なり。

本州は廣大なる加奈陀の西境を形くれる大州にして其面積三八三、〇〇〇方哩、其東境には「ロッキー」山脈連亘し太平洋を横斷し來る暖流の恩惠を浴く全州に漲らしめ比較的高緯度に位置すれども氣候嚴寒ならず英本國に酷似すと稱せらる。一九一一年の調査に依れば人口三九二、四八〇にして其内日本人一、〇〇〇なり。

今本邦人擴布の現状を地方別にすれば（但し一九一四年の調査による）

地名	戸數	人口
ワンクーパー	三四七	四、五〇六
同附近	八三	一、〇九七
ステヴエストン	三〇三	一、四六〇
ナ、イモ	二七	八七九
カム巴拉ンド	七四	三八九
ニューウエストミンスター	六七	三三五
「フレザー」河流域	五五	三二〇
大陸北部沿岸	六〇	三八三
ビーシー州内地		四六二
ヴァイクトリヤ	三五	三四一

本州は移民の増加によりて頻年人口増殖しつゝあるは明瞭なれども亦歐洲大戦の影響を受けて其趨勢を頓挫せること事實なり。本州の産業として第一に指を屈すべきもの製材、水産、鑛業及び農業なりとす。

製材業は無慮一億八千萬英町に達する廣大なる森林より産出する良材に依りて成り立ち價格二千萬弗に達すと云ふ。水産業は在留邦人の従事者最も多く邦人に對する利害關係亦最も大なるものなり。試みに地圖を繙きて「コロンビヤ」州の西海岸を一瞥すれば點々碁布したる島嶼は參差交錯せる海岸線と相待ちて幾多の好漁場を形くりたるを見るべし。特に「フレザー」河口附近は有名なる鮭の漁獲地たり。試みに千九百十五年の漁獲量を示せば

魚名	數量
鮭	三六五、五二八箱
鯨	七三、九六八

鱈	二二、四八五
蛤	九、三三二
鱒	一、一四九
鰕	八、〇〇〇
鯨	三三〇頭
海獸	二五七

鑛業も亦有望にして其主なるものは金、石炭、銅、鉛、銀等なり。其他鐵、亞鉛、白金の少量を産出す。尙本州は人烟稀薄にして山地比較的多ければ未發見の鑛區多々あるべきを信ず。

農業に至つては發展の餘地甚だ大なるを認む。南方平原の如き或はヴンクーパー島の如き皆有望にして東洋の健全なる移民の勞力を待つこと久し。又土地豊饒にして温帶の果實一として栽培に適せざるはなく麥其他の穀類能く繁茂せ

り。牧畜業も亦前途に光明を認め漸次發達の徑路を辿りつゝあり。然れども今日は何せん勞力少くして産額多からず。従つて未だ内國の需要を充すに足らず。纔に輸入を以て之を補ひつゝあり。

歐洲大戰勃發して以來徵兵制度無く常備軍寡小にして劣弱なりし英國陸軍は俄に二百萬の大軍を西部戰場に送らんとし加奈陀よりも壯丁を募つて戰線に派遣せし爲め産業悉く衰頽せしは亦已むを得ざるなり。然れども義務の觀念旺盛にして能く本末輕重を誤る事なく一朝有事の日奮て劍を執り國難に赴くもの多數を殖民地に得たるは流石は英國人にして品格ある紳士の俤を想望せしむるものあり。

九 「シヤトル」に遊ぶ

「ピラトリヤ」棧橋より「シヤトル」行の汽船に乗る。約二千噸許りのものにして船内諸設備甚だ能く整頓し構造美麗なり。音楽室喫烟室眺望室酒場食堂等遺憾なく設けられ且つ速力約二十節にして矢の如く「ジュアンデフカ」海峡を横ざりて米領に突進せり。

「シヤトル」の市街は丘陵の上に建てられ眺望絶佳なり。「エリオット」灣は水深く幅員小ならずして大船巨舶を碇置し得べく而も強風長濤より保護せられ棧橋の設備亦理想的なり。故に開港僅に六十年にして港の隆盛は優に附近の諸港を壓し「タコマ」の繁榮を奪ひ大北及び北太平洋鐵道會社をして争つて線路を擴張し陸上の聯絡を圖るに至らしめたり。

市街は家屋壯大車馬絡繹行人殷賑にして肩背相摩し自動車の往來頻繁にして

織るが如し。翌日三井物産會社々員の案内にて自動車を驅つて郊外を一週し「ワシントンレーク」の岸線に沿うて走り眺望を恣にせり。其時「ワシントン」大學を訪ひ有名なる「ワレゴンバイン」にて作られたる森林建築物を見たりしが規模雄大にして幽邃の氣人に逼るを覺ゆ其場所は人寰を離れて高燥の地に建てられ思索に耽るべく攻學に従ふべく最も相應しき地なり。

邦人の「シャトル」に移住せしは明治十八年頃より始まりしと云ふ。今日は殆んど英語を用ひずして諸般の用便を達し得る程度に邦人の商店發達せしと雖も未だ大なる成功者と目すべきものを見ざるは遺憾とする所なり。當地に邦人の經營する新聞二三種あり。日々其の記する所を見るに在留邦人は二派に分れ互に惡罵冷評を浴せて兩々相下らず鏑を削りて争ひつゝあるを認む。其何故なるかを深く探らざりしと雖兄弟牆に聞ぐは互に其發展を害し進歩を妨げ共に俱に損害を受くるのみにして何の益する所もなかるべし。

吾人の訪問せしは嚴寒の候なりしも氣候溫和にして酷烈ならず。降雪の量も亦少くして其平均溫度本邦の同緯度の地に比較し得べくもあらず。蓋し快晴の日少きと比較的溫度高きは黒潮の影響を受けたるによるものならん。

米國は自由平等の國なり。世界の人種を溶解したる一大坩堝なり。獨逸人故「ミュンステルベルヒ」博士曰く「米國人の特質は自主の精神自發の精神自全の精神自重の精神に富む」と云へり。偉大なる米國建國の精神は今尙人民の精神の基本的要素をなし言論の自由生活の自由を享有し且つ獨立の人格者として個人の權利を保有し他人の權利を侵犯せず。公共的人道的に健全なる社會を作り各個性を完全に發達せしめつゝあり。個人の意志の發動には政府の命令も大統領の敎書も或は法律をも超越する事なしとせざれども民意輿論には飽くまで從順にして正義公道の前には地位も家庭も省みず奮然起つゝの概あり。今回の戦争に於て獨逸が國際公法を無視し人道に違反する行爲を見るや故「ルーズベルト」

氏は義勇兵を志願して戦線に赴かんとし「ニューヨーク」の市長たりし故「ミツチエル」氏は飛行將校として従軍したりしが如き又素養なき志願兵を募集して忽ち二百萬の大軍を得歐洲の平原に「ヤンキー」魂を發揮せるが如き皆自發的に有事の日國難に赴かんとするは賞讃に餘りあり。之を我が國の現状を以て比較すれば其社會政策に於て人民の自發自重の精神に於て尙五十年幼稚なるを感ぜざるべからず。我が國の治者は官僚的威權を以て被治者に臨み貴族階級は傳統的因襲を頼み傲然として平民に對せり。人民は一般に事大主義にして卑屈而も徒らに形式の末に拘泥して繁文褥禮に禍さるゝこと多く諸種の選舉運動に際しては官權の干涉に甘んじ又屢々買収されて恥づることなきものあり。而して弱者或は婦女子に對してのみ暴威を振ひ慘虐なる行爲を敢てして怪む事なし。都市は殆んど公共的設備に於て見るべきものなく衛生機關不完全にして傳染病蔓延し死亡率甚だ高しと雖當局者は常に少しも關せざるものゝ如く、田舎は義

務教育を終へたるのみ、自發的に進歩發展する事なく只營利に醜態するを見るなり。

我が國の教育ある人士口を開けば忠君愛國を云々す。然り歐洲戦争前に於て忠君愛國は慥かに我が國の專賣特許なりき。然れども今回の戦争に於て交戦國軍人間に幾多の美談佳話を殘し彼等の忠國旗愛社會等は形式は兎も角も實際に於て敢て我が忠君愛國に劣らざる事を示せり。之れ今日吾人の奮勵一番更に此精神を文明的に開發指導して彼等に超越する事を努めざるべからざる秋なり。

顧みて米國の國勢を見れば資本豊富にして事業勃興し世界第一の工業國たり。又沃野千里田畝青々として無限の勞力を需要するものあり。再び顧みて米國の海軍擴張の大計畫を精査すれば實に吾人を警醒する好材料たるなり。米國は富を以て建ちし國なりき。今や彼は兼ねて武を以て起たんとす

然れども新興の國民は吾人の探て以て學ぶべき多くの長所を有す。彼等は始

め歐洲諸國人の移民より成りたり。愛蘭人を始めとし英國人獨逸人佛蘭西人伊太利人猶太人等は其の主なるものなり。然れども雜婚により漸次優良種族を成生するに至れる今日は進取の氣家に富み老境に至つて尙潑刺たる勇氣を保持し言責を重んじ信用を主とし形式を棄て、實質を採り繁文褥禮を避けて事務簡捷を尙ふ。又他人の成功を見て喜び諸事業を歓迎し快活にして義務の觀念盛なり。之は邦人の學んで到らん事を努むべき要素たるなり。

近來講和問題移民問題に關聯して日米間の交情を害せんとする中傷者なきに非ず。誤解は常に相互を乖離せしめ侮蔑は遂に争鬪に導くものなり。正義の主張は彼我共に飽くまで貫徹せしめよ。之と同時に道理には潔く屈服せしめよ。然れども相互の間は國際的に君子の交友たらざるべからず。吾は専心社會の惡制を改良して個人の公德を増進せしめ以て意志疏通を計るを要す。而して太平洋をして恆久に太平ならしめ旭旗と星條旗と相交又して平和の象徴たらしめよ。

一〇 石炭搭載

予は海軍に於て航海せし裡數無量十數萬裡に上りし事を信ず。而して航海と石炭搭載とは兩々相離るべからざる關係あり。長航海を爲さんとせば先づ大量の石炭を搭載せざるべからず。搭載終れば航海して之を消費し入港すれば又石炭を搭載す。日露戰役に於て然り。日獨戰役に於て然り。艦隊に屬する艦船に於て然り遠洋航海に於て無論然るなり。

軍艦に於ては石炭搭載の爲めに總員配置を採用するを普通とす。上は副長より下は四等卒に至る迄皆此作業に従事し各分隊速度の競争とす。日本の沿岸に於ては普通に煉炭を供給し且つ人夫の手にて貯炭所より適當なる平底船に積載して艦側に持ち來るを以て設備簡單にして作業迅速なり。然れども外國に於ては概ね英炭或は和炭の粉炭を供給せられ加之炭船不適當なるもの多く從て作

業複雑にして多くの時間を要す。

今回「イスカイモルト」に於て施行せし石炭搭載作業は予が曾て従事し或は見聞せしもの、中最も困難なるものなりき。「イスカイモルト」要港部の需品庫に英炭を貯蓄せる倉庫數多あり。倉庫より海岸迄の距離約三百米吾人は先づ倉庫の石炭を運炭車に積み之を軌道により運搬して海岸に至り岸上に突出したる軌條の末端より約廿尺下方の海岸に横附せる運炭船に移すなり。運炭船は約二百五十噸積なれど古色蒼然として周圍の圍板等大半破損し石炭を満載せしとき屢々轉覆せんとして辛うじて支へたる有様なり。運炭車は軌條と共に概ね腐朽したるものにして稍もすれば軌道を脱し再び之を嵌合するに無益なる時間と勞力を要さしめたり。

此装置を以て本艦は一人の勞働者を使用せず。單に兵員の手を以て千二百噸を搭載せんとす。第一日に於て早朝より水兵及び機關兵の全部を以て深夜まで

作業し僅かに五百噸を運炭船に積置したるのみ、是を以て最初より本艦の石炭庫に取入るるまで五百餘名の人員にて五日間を費せり。其間毎朝未明より深夜まで従事し作業員悉く全身に炭粉を浴びて亞弗利加の黒奴の如く加ふるに天寒くして飛雪面を掠め手足凍結せんとするが如しと雖も本艦の兵員は皆能く勉勵し少しも勞苦を厭ふものなく相助け相勵まし時移れども寢食を忘れ勞働烈しけれども毫も不平の色なかりき。後當港出發の前日竹下司令官小宴を催し「ストリー」少將を招ぎしとき「ストリー」少將司令官に向ひ「貴官は部下に善良にして困苦缺乏に堪ゆる多數の兵員を有せられ羨望に堪えず」云々と話されたりと云ふ。此の言簡單なれども其意味深長なりと云ふべし。即ち以て彼我習慣の差違を知り又軍人的訓練の程度を察知すべきなり。之れ此一ヶ年間を通じて最も困難なる作業の一なりき。

本艦は幸にして一人の負傷者なく無事に結了せしと雖も軍艦艦手に於て二名

岸上の軌道より運炭車と共に運炭船に墜落し三等兵曹橋本甚八氏は即死し他の一名は重傷を負ひたり。

數日の後磐手の中甲板第二區に於て故橋本兵曹の爲めに壯嚴なる祭式行はれたり。予は本艦士官室を代表して之に臨む。司令官を始とし各艦長幕僚各艦の各室代表者諸事及在留民の代表者數名臨席せり。海軍葬喪令により型の如く順序を経て後ち磐手艦長立ち沈痛なる語調にて弔詞を讀む。並び居るもの皆面を覆はざるはなし。聞く所によれば橋本兵曹に常に作業に當り勞を惜まざり率先して危地に就き躬を以て部下に模範を示す人なりしと云ふ。年尙ほ少壯にして一身を公務に捧げたるは哀悼に堪へざる所なり。

「シンガポール」「コロンボ」及「アデン」等に於ては支那人馬來人印度人或は亞刺比亞人の船夫載炭船を艦側に持ち來りしを以て比較的順潮に進行せり。「アルバニー」及び「フリマントル」に於て勞働者は白人なるを以て午前八時以前は作業せず。午後五時より以後は賃金の増加を請求し或は日曜日には作業を欲せず。之を強ふれば高額の賃金を要求するが如き我儘なる態度多く吾人の如く常に戦闘準備を完整し一令の下に出動し得る用意となす爲めには不便なる點多かりき。

石炭搭載は一見非訓練的にして軍務として價值少きが如しと雖分隊長は分隊全員と勤勞を共にし勞苦を分つの見地より好適の作業にして之れに由て分隊長は下情に通じ兵員の性質舉動を知り下士卒は分隊長に對し益々敬親の念を増し兼ねて競争心を鼓舞する事を得べし。而して水兵部員のみならず機關兵と共同作業なるを以て殆んど艦の全員一目的の爲める努力する事となり公務てふ神聖なる職務的觀念を涵養する事を得べく精神上得る所決して尠からざるなり。

一一 横須賀歸着

二月廿七日横須賀に向つて歸港の途次に就けり。歸途は航路を往路の南方に
選び初め北緯三十六度まで斜に南下し次に正西の針路を以て犬吠崎に向つて進
みたり。今回は往航と異り概ね天氣晴朗にして風力弱く随つて艦の動搖甚しか
らず。

三月十三日黒潮流る、太平洋の波上に於て基本演習を施行せり。即ち本隊を
二分し出雲日進を青軍とし磐手を赤軍とし左の計畫により實施せり。

要項	區分	青軍	赤軍
編	指導官	竹下第二戰隊司令官	磐手艦長
指揮官	出雲艦長		
部隊	出雲日進		磐手

附 令 略	研究事項 略	制 令 略	演習區域 演習開始時に於ける兩軍の連結線を直徑とす る圓周内	想
				定
				青軍
				赤軍

一、青軍は赤軍を搜索攻撃するの任務を有し間
隔二十哩の搜索列に展開す

二、赤軍は青軍の北方百哩以内にあり

一、赤軍は青軍を搜索攻撃するの任務を有す

二、青軍は赤軍の南方百哩以内にあり

三、磐手の勢力は出雲型勢力の二倍と假想す

此日朝來濛氣ありて視界狭小なりしを以て演習開始の令後青軍隊は適宜搜索列を縮小して敵を搜索しつゝ、ありしが敵は吾人の視界に入るに先だち或る方法により其方向を探り得たるを以て敵方に向針して進航せしに先づ敵の煤煙を認め續いて敵の艦體を視認する事を得たり。是に於て本艦は直ちに旗艦に合して其追跡を進み主砲の最大射程に達せし時砲火を開始せり。射撃は漸次猛烈となり同航戦に變じ愈々決戦を期するに至り距離漸く接近して六千米に及び彼我續いて勢力半減を宣告せられたる後演習を中止せり。其間互に魚雷を發射し或は之が避退運動をなし或は針路を轉向して有利なる對勢を執る等對抗の時間僅少なりしと雖戰術の研究に資する所大なりき。又艦内に於ては砲火及び魚雷の指揮系統の圓滑迅速を期する爲め練度を重ね且つ目標の移動に應じて照準及び發射の訓練を積み兼ねて通信能率の増進に與つて效果多かりしを信ず。

航海中本艦は體育獎勵の爲め別科時間に於て劍術柔道及び相撲を爲すを常とす。今回は特に此種の運動を獎勵し又賞を懸けて競技を爲し大に士氣を鼓舞する所ありたり。

之等の武技中予は最も劍術を好む。武道の奧義は劍術にあり。竹刀を執て中段に構へ眼睛を定めて敵手を睨らみ心意を集中して姿勢を執れば鐵を溶かす盛夏も涼風心頭に起り胸中爽然として些の蟠りもなく無我無念の境裡に彷徨す。此時精神統一し四肢耳目皆一點に集中し敵進んで打ち來れば兩腕自ら動きて之を防ぎ敵に乗ずべき好機あれば足自ら進み手自ら動きて之を打つ。精神の命ずる所手足の應ずる所其間に一瞬の間隙なし。予は此境裡にありて戰機熟したる時彼我互に機を察し隙を窺ふ微妙なる考察を喜ぶ。之れ實に劍術の真髓にして練膽養氣の骨子なり。古の腰間に秋水を帯びて全國を周遊し氣節を尙び武道を練りたる人々は此境裡に立ち一步誤れば之れ奈落の地獄にして一步先ずれば仇を打つ事を得べき危急の運命を經來り茲に初めて泰山前に崩るゝも動かざる豪

膽と正義に與みし強者を挫く氣節を養ひ得たりしなり。

短衣粗袴鐵面を被むり竹胴を穿ち日本刀に擬したる竹刀を執て相對す。其姿既に勇壯比なし其心何ぞ武士的ならざるを得んや武道頽れ華美驕奢の風漸次隆にして賄賂行公し土風地を拂ひ濁流滔々として上下皆軟風を助成しつゝある今日單に其形式のみにて世の柔弱なる青年子弟を警醒する好資料たるを信ず。

二十日早朝房州野島崎を雲煙渺茫の中に認め總員歡呼して之を迎へたり。刻一刻懂れたる日本の陸岸に接近しつゝあり。艦脚の尙遲さを恨みつゝ、双眼鏡執る手の急しく十五哩の海上より一瞥を加ふれば房總の連山に薄く變く霞の懷しさ故郷の山川は宛然歸朝客の久瀾なる情を迎へて淺き春の緑を粧ふものに似たり。本艦は斯くして午前十一時横須賀軍港第一區に繫留せり。

横須賀は相州三浦半島の一角に介在し帝國最古の軍港にして亦帝都に近く東京灣の咽喉を扼し重要なる海軍策源地なり。

湘南の天地は由來勝景に富む。横須賀も其數に漏れず。地域狭小なれども樹木に蔽はれたる丘陵聳え其間に市街を點綴す。猿島夏島は池の面の築山に似て島側常に艦橋の林立を見る。又此附近一帶に青山碧水にして風を孕む歸帆釣りを垂るゝ漁舟恰かも一幅の畫を展べたるが如し。北は本牧鼻より南は劔崎に至る岸線は彎入多く碁布したる島嶼は三個の海堡と相待ちて東京灣の風致を添ふる事大なり。

横須賀歸着後本艦は第一水雷戦隊の旗艦に定められ第一水雷戦隊司令官秋山少將移乗し檣頭高く少將旗を掲げ大正の諸葛亮たる少將の聲咳に接したりしも僅に數句にして更に改めて第一特務艦隊に編入せられ晝夜を繼ぎて修理工事を急ぎ先づ佐世保に向け出發する事となれり。

一一一 勇敢なる水兵

四月二十三日横須賀を抜錨して佐世保軍港に向へり。午前七時出港用意の號音にて總員各配置につき錨を抜き艦首を北にして港口に向ふ。予は予の配置たる後艦橋にありて後部の作業を監督しつゝ、ふりしが偶々徐々として進行する本艦の左舷に筑波の殘骸横はるを見る。

大正四年迄は連年觀艦式の御召艦として聖上陛下御坐乗の光榮を辱しし橋頭高く天皇旗を揚げ四重五重に並びたる艦列の間を通過し海軍幾萬の將士が光榮に感じて絶叫したる萬雷の如き祝聲を浴びつゝ、威風堂々東京灣を壓したりしに今や横須賀の港口に橋桁は折れ甲板は傾き艦腹に大破口を生じて海底に膠着するの悲惨を目撃し生者必滅の天理に免れざるを感じ英雄の末路を想起せざるを得ざりき。

帝國海軍に火藥爆發の歴史に記載すべきもの明治三十八年に軍艦三笠の佐世保に於て爆發せしを初とし明治四十一年に軍艦松島の馬公に於て練習航海の歸途爆發して沈没せるあり。大正六年初頭筑波の遭難と大正七年河内の徳山灣に於ける爆發とを加へて四回とす。又歐洲大戰中一千九百十七年英國の弩級戰艦「バングード」の自爆は最も悲惨なるものにして殆んど全員其難に殞れ僅に九十七名の生存者を殘せるのみ。其時吾が海軍の駐英武官江渡海軍大佐該艦にて戰死せられしは帝國海軍の損害甚大なるものなり。大佐は最も多望なる未來を有し將來の向上發展測り知るべからざるものあり。特に砲火戰術の造詣は當時に於ける屈指の人にして砲術學校教官或は教育本部員として斯道に貢獻する所大なりき。又日獨戰役に於て青島攻圍軍海軍重砲隊先任參謀として從軍し赫々たる戰功を收め名噴々たりき。予は夙に大佐の卓拔なる識見と萬難を排して正義に與する勇氣とに敬服したる一人なり。歐洲大戰開始せらるゝに及び千載一遇

の好機に吾が海軍の輿望を負ひ選ばれて英國駐在となり親しく英獨の海戦に參加して大に發明工夫する所多かるべきに先に「ジュットランド」沖の海戦に級友下村君の英艦「クインメリー」に殉ぜるあり。今又大佐は國家の寄託に背き春秋高き身を以て戦死せらる。哀悼何ぞ堪へん。

本艦は港口を出て右折して第二第三海堡の間を通過し東京灣口に向ひ漸次豫定の針路を辿りて外洋に出づ。本日は天氣密濛にして視界狭く遂に遠洲灘に於て我が崇高秀麗なる富士の靈山を仰ぎ見る能はざりしを遺憾とす。唯三浦半島の翠巒海波と映じて一入の美觀を添へたりしを見て僅かに自ら慰むるのみ。

廿四日朝來北風烈しく午後に到り風力約六乃至七怒濤艦側を衝撃して甲板に飛沫を揚げ前甲板の如きは宛然驟雨の來襲せるが如し。午後二時十分土州室戸崎の南方三十哩を西航しつゝあり其時予は當直將校として羅針艦橋にありて針路を守り艦の前程を監視しつゝありし際艦橋通路にありし掌帆長屬が異様の呼

聲を聞き溺者ありしを知り直ちに救助艇の用意を命じ機械を停止し後退全速をなして艦の情勢を停め救助艇を卸して救助に赴きしが當時波浪甚だ高く操縦意の如くならず動もすれば救助艇の轉覆を來すの虞あり。浮標番兵は溺者を見て直に浮標を投じたりしも激浪は溺者をして遂に浮標に取着かしめざりしやを疑ふ。本艦は一回轉して現場に行きしとき端艇は何の得る所なく唯波間に彷徨しつゝあり。波浪に徒らに洶湧し溺者は遂に所在を知るに由なし。本艦は救助艇を收容し見張を充分にして約三時間其附近を搜索せしも遂に得る所なかりき。噫第三分隊二等水兵澁谷龜次郎氏は九番六吋砲々門より波浪の浸入を防がんとめ勇敢にも命索を身に縛し舷外に出で作業に従事せしが偶々命索切斷して氏は遂に逆巻く激浪に浚はれ海底の藻屑となりぬ。征南の首途に於て公務の爲めとは云へ尊き犠牲を出したるは惜しみて尚餘りありと云べし。

氏は新潟縣人年齒僅に廿一歳夙に志を立て身を軍籍に投じ海國男子として前

途甚だ多望なりしに大膽なる性質は君をして冒險を敢てせしめ職務のために身命を捧げしめたり。之れ實に軍人の本分なりと雖も蓄の名花未だ春に逢はざりしを憾む。

春淺く嵐の庭の櫻花咲く間もまたで散りて行くなり。

翌日午前十一時總員上甲板に整列し遙に室戸崎の南方三十哩の沖を望み親愛なる戰友故二等水兵澁谷龜次郎氏永眠の場所に向ひ「水漬く屍」の哀歌を合唱して同氏の靈魂を慰弔せり。當日は終日業を休み只管故人の性行を語りて其美點を稱し以て追想の爲めに一日を費せり。

一三 佐世保港

廿六日午前八時本艦は佐世保に入港せり。佐世保は第一艦隊附屬の驅逐隊にありし際所屬軍港たるの故を以て補充交代の爲めに入港せし後茲に二年軍港の設備等に於て大なる變化を認めず。想起すれば明治四十一年の秋第十一艇隊長に補せられて佐世保に赴任せしより前後合して五年間在勤せし軍港にして山川草木皆舊知に會ふ感あり。北方に聳ゆる烏帽子嶽は群山を壓して高く聳え會遊の昔を追想するものゝ如く相對する將監嶽弓張嶽は新緑萌え出で東風幽香を齎して本艦の南征の壯途を送くるものに似たり。港の西岸に巍然として峙つものは愛宕山なり。山高からずと雖も頂上より鎮西の松島の絶勝を瞰下するを得べく遙に相の浦富士と對して附近の沿岸村落を指呼すべく又遠く黒島平戸島等を雲煙渺茫の中に望みて水陸の景勝を双眸の裡に收むべく好適の地なり。港の

東隅なる峩々たる斷崖の上に建てられたる瀟洒たる洋館は岩上の松の緑と相映して宛ながら亞刺比亞海に於ける蜃氣樓を見るが如し。之れ佐世保防備隊なり。佐世保防備隊は予が會て勤務せし所にして深き印象に残したる所なれば遠征の首途に於て懷舊の情切なるものあり。

佐世保の北西方二里に相の浦なる一小港あり。其海岸より舟を備ひ數分間にして惠美子島なる小島に行き得べし。此島は全島公園にして老松蟠屈し奇岩怪石波打ち際を飾り清澄にして深緑なる海水と相應じて風光愛すべく附近の島嶼皆同趣向にして此地方第一の景勝の地たり。日曜の一日筈を曳きて此地を訪へば松風濤聲天籟の奏づるに似て世の煩累を忘れ得べく以て浩然の氣を養ふに足るべし。

佐世保市は人口約十一萬を包容し年を追ひて繁盛に越きつゝあり。又此地は南方策戦に際し吾帝國の海軍策源地たる隨一の軍港にして又戰略上最重要なる

地なり。而して交通は海陸共に四通八達にして軍需品の受給艦艇の修理機關完成さるゝあり。故太田海軍大佐會て佐世保一軍港説を唱道して天下に呼號するや其反響する事多大にして朝野の具眼者をして頻りに注目せしめたる程重要な地なり。

吾が帝國は國土の面積に比し海岸線甚だ長く從て瀬戸内海、九州の西岸及び朝鮮の南岸には良好なる港灣少からず。吳、佐世保、鎮海灣の如きは世界に有數なる良軍港にして吾が帝國の誇りとする所なり。其他尙物色すれば理想に近き港灣少からず。帝國は此點に於て實に天恵に富めり。特に九州の西及南の海岸の如きは彎入避迫地甚だ多く且水深ければ艦船の出入容易く驅逐隊潛水隊の訓練に好都合なり。又瀬戸内海の廣島灣豊後水道及び鎮海灣附近は艦隊の諸教練、諸演習に好適にして各艦隊の常に集合する所たり。如斯良灣に富めるは世界各國未だ曾て見ざる所にして海軍國として大に帝國の將來を祝福するものなり。

慧眼なる英國は夙に此點に注目し世界の各地に樞要なる地を占領し以て海軍の根據地となせり。其中天然に作られたる良灣と稱すべきもの東洋に於ては香港を擧げ南洋に於ては「シドニー」を指さざるべからず。此二港は人爲的の築港を要せずして避泊防備共に地の利を占たり。其他世界の航路に當る須要の地點は英國の所有權或は優先權を附せし地多し。今日英國は大海軍を擁し大植民地を有し國運隆々として富の程度計り知るべからざるもの其由來する所深く且つ遠しと云べし。

佐世保に於ては石炭の搭載と生糧品の積載とを爲し勉めて兵員に慰勞の休暇を與へ廿九日午後一時出港し新嘉坡に向へり。出港に先だち佐世保鎮守府參謀長齋藤少將は副官山口中佐を從へ本艦を訪ひ訣別を告げらる。本艦は徐々として繫留浮標を離れ行進を起せし時在港の艦艇は皆一齊に登艦禮式を爲して大に前途を祝福せらる。余等乗員一同亦登艦禮式を爲して之に答へたり。

一四 南征の首途

行雲流水昨は嚴寒に浦鹽を訪ひて露人と握手し更らに轉じて太平洋を越え北米の加奈陀に英人と接して同盟の國誼を厚うし今日は鵬程萬里の風を孕みて將に南征の途に上らんとす。南船北馬席暖かなるに暇あらず。海軍將校の境遇亦多事なる哉。此多事なる境遇は吾人の生命にして廣漠たる海洋は吾人の活動舞臺なり。予は郷里の中學生たりし時海軍々人が萬里の波濤を踏破して寄港するものを見る毎に青春の血沸き立つを禁ずる能はず。志を立て海軍將校たらん事を望み遂に軍籍に入る事を得たりしが江田島の生活は實に規律的にして且つ鍛練的なりき。卒業後内國及び外國の遠洋航海は吾人の最も愉快とする所にして又最も好奇心を刺戟したるものなりき。目に觸るゝもの耳に入るもの總て皆珍奇にして智識を増し見聞を博めたるもの多し。練習航海を了り各艦に配乗し

て艦務を練習する事更らに半年にして初めて少尉に任ぜられたり。任官以來櫛風沐雨十有六年其中日露日獨兩戰役を経過し來りて今日に到る。過ぎし生涯を回顧すれば半生の膏血濺ぎ來りし跡何等實績の見るべきものなく只管慚愧に堪へざるものあり。而して諸科の技術は駸々として進歩し日露戰役の當時を以て今日に比すれば實に隔世の感あり。特に歐洲戰役は吾人の研究心を鼓舞する事多大にして今後技術の發展亦端睨すべからず。

佐世保出港以來連日の好天氣にして波浪靜穩春風肌に心地よし大瀬崎の南方を過ぎ男女群馬を左舷正横八裡に見て針路を臺灣海峽にとりて航進す。臺灣海峽航過後は安南の沿岸に沿ひて新嘉坡に直航せり。

其間屢々支那沿岸諸島の燈光を見て艦位を確定しつゝ、又航海長の天測法によりて艦位を實測し之を海圖上に點記しつゝ、航進す。南支那海は由來暗岩に富む「ブラタス」の如き「バラセル」「マックレスフィールド」の如き又「プリンス

ウエール」の如き「バンガード」の如き礁脈到る處に散在し屢々航海者の頭腦を悩ますものなり。又「バラワン島」の西岸に約二百四十裡平方の危険界あり。未測地域にして其界内には暗礁淺灘甚だ多し。然れども本艦は幸に熟練なる航海長が多年遠洋航海にて研磨せる手腕を振ひて萬全の策を講じ潮流を推測し信風を考慮し加ふるに最も信頼し得べき天測と精緻なる羅針儀とを以てし常に正確なる艦位を得つゝあり。是に於て吾人は枕を高ふして只到着の日を楽しみつつあり。

氣温は漸次上昇し來れり吾人の服裝は佐世保に於て冬服なりしものは白服と變り士官室に扇風機を備へ附け天幕の下に涼を納るゝ氣候と爲れり。此時に於て吾人は佐世保出港以後數回戰鬪及合戰準備等の教練を施行し實戰に際し機敏に全戰鬥力を發揮し得べく練度を重ねたり。

海軍に基本教練なるものあり。其數多し。即ち臨戰準備、合戰準備、戰鬪、

水雷防禦、艦内哨戒、陸戰隊、敵艦捕獲、船舶臨檢拿捕、水雷艇軍裝、掃海、水雷防禦網、艦内通信傳令、短艇出入、總員乘艇、總短艇槽走、防火、防水、防火隊派遣、潜水、溺者救助、難船救助、出入港、艦艇横附、曳船被曳船、荒天準備、片舷機航行、錨搬出等なり。各艦は是等教練に際し豫め乗員各自の受持作業人員の配置等を定め置き然る後幾回も實際に施行して其作業に慣熟せしめ以て一朝事ある時は之を應用して迅速に且つ秩序的に作業を完結し以て夫々戦闘各部の目的を達する事を得るなり。是等の諸教練の中最も重要なるは戦闘教練及び合戦準備教練なり。戦闘教練は假設物に對する戦闘の實施訓練にして合戦準備教練は戦闘に到る迄の諸準備なり。本艦は前記の諸教練に對して特に意を用ひて萬々遺算なき事を期せり。

吾人の用意は完結せり。士氣將に旺盛なり。速に出沒自在なる敵の假想巡洋艦を發見し之を撃滅し以て通商保護航路安全の大任を全ふするを得ん事を衷心

より祈る所なり。

一五 隠れたる殊勳者

七千五百噸の軍艦を大速力にて前進せしむる爲めに船内に機關部員なる一集團あり。機關少佐たる機關長の下に機關大尉たる分隊長三名中少尉三名特務士官准士官四名下士卒二百廿八名(但し増加員を含む)よりなる。機關は機械罐及び補機に大別せられ石炭を燃燒する爲めに十二個の水罐式機關を備へ其發生したる蒸氣により機械を運轉し以て推進機を回轉し本艦を前進せしむ。補機としては發電機蒸化機揚艇機揚錨機及び各種の海水唧筒等を有し航海中は勿論碇泊中と雖も終日汽釀を絶つ事なく又以上の諸機を使用せざる事なし。何となれば電流の源泉たる發電機は瞬時も停止する事能はず。若し電燈を點せざれば艦内下層の諸室は暗黒にして一切の事務作業を爲す事能はず。三度の烹炊は蒸氣によりて爲さるべく浴室の湯は蒸氣によりて沸かさるゝなり。或は甲板を洗はん

が爲めに海水を要する時海水唧筒によりて吸上する事を得べく汽艇を卸さんとすれば揚艇機の機力によりて遂行さるべし。斯の如く四六時中蒸氣の用途は絶ゆる事なく随つて機關部員は寸時も休む事なく石炭を燃燒して蒸氣を作りつゝあり。碇泊中に於て然り。航海中は大部分の罐を使用し大量の蒸氣を發生し以て推進機を高速度に回轉せしめ本艦を航進せしむる事を得るなり。

時漸く夏期に近づき地域は熱帯の無風圈内に在り。機關部の作業大に困難の度を増せり。即ち赤道地方に於て罐室の如きは華氏百廿度以上に昇り當直員が炭粉朦々たる中に焼くが如き苦熱を冒し流汗淋漓全身を浸し氣息虹を吐きて尙職務に勵精しつゝあるを見て同情の念油然而して起るを覺ゆ。機械室然り。補機室然り。何れの室も如上の苦熱の中に在りて職務に盡瘁しつゝあり。平生の當直は全員を四分し一直四時間交代法によりて勤務す。然れども高速力を要求する時は二直となり僅に四時間休養して次ぎの四時間は焦熱の中に苦闘せざる

べからず。休養時間中には睡眠食事一切のものを含有せしめれば眞の休養時間は僅小なるものなり。是に於て吾人は本艦乗員の一人として機關部員に對し滿腔の感謝を捧ぐるに吝ならざるなり。之れ實に本艦に於ける隠れたる殊勳者なり。

往年予は軍艦嚴島にて遠洋航海の途次新嘉坡に立寄り赤道を横斷し「バンカ」の海峡を出で「ジャヴァ」の「パタビヤ」に回航せし時通風装置不完全なる嚴島の罐室は其溫度華氏百五十度に昇り若年なる二名の機關兵は日射病にて卒倒したりし事を記憶す。又大正四年本邦の南方海面に於ける大演習の際高速力を出せしため各艦に於て機關兵の日射病患者續發し軍艦笠置の如きは六名卒倒し三名死亡したが如き事件を惹起したる事あり。其他毎年日射病患者絶ゆる事なし。熱帯地方に於ける機關部員の作業は天下の同情に價すと云ふべし。

又機關部員は軍艦の下層に起臥し常住高温に曝露し且つ其中に勞働して汚濁

せる空氣に親しめるのみならず石炭の粉末を吸収して呼吸器を衰弱せしむる傾向あり。之れが爲め顔色蒼白なるもの身體羸瘦せるもの多し。之が監督者たるもの須らく彼等の健康に細心の注意を拂ひ新鮮なる空氣と日光の恩澤に浴せしむる必要あり。故に別科時間等は勉めて上甲板に於て體操其他の體育運動を爲さしめて職業的の缺陷を補ふ事に留意しつゝあり。

顧みれば過去數十年間吾が海軍は三回の戰役を経來り名聲赫々常勝軍の名を縦にせし所以のもの其原因する所多しと雖亦各員自己の職責に對し飽くまでも忠實にして斃れて後止むの氣概ありしは之を主因の一と認むるを至當とす。孰れの方面を見るも男子の職業一として輕易なるものなし。然れども一ヶ年間海外に漂浪し其大部分は熱帯地方に行動し焼くが如き苦熱と闘ひ以て職責を全うしたる本艦の機關部員は永く海軍に於ける難事苦業の征服者として推奨するに足らん。

一六 厨宰及び主厨

本艦内に主計部員なる一團體あり。主計長として大主計一名補助官として少主計一名上等筆記一名外に筆記三名厨宰三名主厨十七名よりなる。予は今其厨宰及び主厨に就き少しく記述する所あらんとす。

厨宰は下士にして主厨は卒なり。厨宰は三等厨宰より一等厨宰まで三階級あり。一等厨宰より上等筆記(判任官一等)となり尙階級すれば特務士官たる主計少尉となり漸次主計大尉迄陞進する事を得。主厨は五等主厨より一等主厨まで五階級あり。始めて入籍し海兵團に入りし時は五等主厨にして六ヶ月間の練習を卒ふれば四等主厨に進級し艦船に配乗す。

厨宰主厨の本職として乗員の三度の食事を調理し吾人乗員をして安んじて職務に勵精するを得せしめ常に衛生的にして且つ滋養ある食物を供す。其中厨宰

は主として原料調達及び需品整理に任じ主厨は専ら烹炊の業に服す。

烹炊の業は一家の中に於ても最多忙にして手数を要するものなり。況んや六百五十人の爲めに三食を調ふるに於てをや。朝は毎朝三時より午後は五時まで作業し手数多き炊事と調理とを終れば之を計量して配給し續いて諸器具を清洗し次回の烹炊の爲めに用意す。二六時中此作業を繰返しつゝ曾て倦む事なし。

世に天職を奉じ常に快然として之に従ひ最善の努力を盡くすものあれば其職務の何たるを問はず吾人の崇敬に値するものなり。本艦の主厨の如き之に相ひ當るものと云ふべし。一年間に達する長航海赤道を通過する事四回日本の盛夏以上の氣候約七ヶ月間此隆暑の間に處し常に營々として職務に盡瘁し炊烟場裡厨房の前只天職に忠實にして精勵なる人を見るのみ。

艦内の業務に休日あり祭日あり遊戯を許して一同娛樂をなす事あり或は茶番狂言を演じて無聊を慰め或は力士を募りて角力を闘ふ事あり。之によりて乗員

は天と波との外に何物もなき單調なる生活に慰安を得ること幾何なるやを知るべからず。然れども烹炊作業に休日なし却て祭祝日には兵員に珍味を饗するために多忙の度を増すのみ。此時吾人は其博愛的職務に對し感謝の念を禁ずること能はざるなり。

彈丸飛び魚雷走る。戦闘中は彼等は負傷者運搬及び運彈手と爲て直接に戦闘に關係す。即ち水兵及び機關兵等は皆總員配置にて各擔任の兵器の使用に従事するを以て負傷者の治療所に運搬して直ちに應急の手當をなさしめ或は速射砲の彈丸を砲側に運搬して射手及び砲員をして安じて敵艦の撃滅に従ふ事を得せしむるものは此の主計部員なり。之等は實に彼等の隠れたる任務にして偶々彼等の本職を箔するものなり。

厨宰は糧食の外被服の出納受給を掌り各被服の制定されたる固有の期限に應じて交附交換をなし其記録を作り其保管に任ず。下士卒は皆其等級證狀及び善行章の多寡に従ひ被服の左右腕に記號を附す。是等の煩雜なる業務を執掌し整然として一糸紊るゝ事なし。之れ彼等の副職にして即ち其職務上の價值を大ならしむるものなり。

海軍の下士卒は其職務複雑にして大砲に配置されれば砲員となり發射管に配置されれば發射管員となり探照燈に配置されれば探照燈員となり罐に配置されれば罐部員となり補機に配置されれば補機員となる。其他配員上の都合により傳令員彈庫員測距員及び倉庫員等となる事あり。而して各員は小銃或は拳銃を貸與せられ端艇を受持つものなり。特に弱卒は屢々其職務を交換して種々の作業に慣熟せしむる必要あり。加之艦内に於ては日曜祝祭日を除く外は諸種の教育と艦内各部の保存手入作業をなすを以て彼等は常に多忙にして活動的なり。而して此時其活動の源泉たる三度の食事に關しては一切主計部員に委し其心を籠めたる調理と精選したる材料とにより舌感を喜ばし口腹を樂ましめ以て善良

なる健康を維持し長航海の無聊を慰むる事を得るなり。厨宰主厨の職責大なる事斯の如し。

然れども兵員の食事に關しては尙改良すべきものあるを認む。例へば毎月二回晝食に乾麵麩を給し隔日に麵麩を給するが如きなり。現に常食として麥飯を給しつゝあり。且つ乾麵麩は航海中夜中勤務者に毎日夜食として給しあり。更に常食として之を強ふる必要なし。却て機關兵は當直を終りて罐室より昇り來り烈しき發汗と大なる疲勞との後乾麵麩の如き乾燥したるものは食するに堪へずと云ふ。又防寒被服に於ても依然として日露戰爭當時のものを襲用し時勢の進歩に伴ひて改良する事をなさず。例へば白黒の外他の便利なる色を採用する事なく其地質裁縫の如きも需用者の希望を充さざる點多し。

一七 新嘉坡港

馬來半島の南端に新嘉坡島あり。該島の東側に新嘉坡港あり。本港は去る明治三十六年練習航海の途次會て遊びたる地なり。爾來年を経る事十四年茫として記憶に存するもの唯植物園「ラッフルホテル」及び黒面赤禪の人のみなりしが今回寄港の機を以て上陸して市街及び附近を観察するに依然として馬來の遊民「ジョンストンピーヤ」の周圍に蝟集するもの先づ吾人の注目を惹き其種の多種多類なる世界人種の展覽會を見るが如く人力車及び支那人車夫の多きこと是れ亦第一に吾人の目に映ずる著しきものなり。市街は僅に歐人の住する數街を除けば多く見るに足らず。唯道路平坦商業賑盛にして物資の集散活潑なるを見る。

熱帯の美は植物の美なり。新嘉坡に來るもの必ず植物園を見ざるべからず。

植物園に遊びて珍木奇草の翦鬱として繁茂し花を飾り實を結べる造化の妙機に觸れ以て審美眼を涵養せざるべからず。

此數日は炎熱燒くが如くにして風なく更に驟雨の來襲する事なく蒸熱甚だし。其間を裸體の人半裸體の人赤禪を帶ぶるもの跣足のもの參差として往來し之に白衣の歐人を雜へて奇觀極りなし。試みに日暮れ街上孤狀燈照す時市街を散歩すれば道路を走るものは支那人の車夫にして路傍に蹲居するものは馬來人の勞働者なり。自動車を驅るものは概ね歐人にして浴衣を着し涼を納るゝものは日本_本の在留民なり。

本港に在留する日本人約二千名にして内數百名は醜業婦而して一家を有するものは僅に約二百名なりと云ふ。此數字を見て吾人は日本の中流人士に事業を海外に與し外人と競争して富源を開拓するも霸心少く常に好んで不生的卑陋なる職業に就き徒らに一擲千金を夢みて確實なる商業に従事せざるを慨せずんば

非るなり。

本港をして温帶地にあらしめば港の構成は天然の良港と稱すべからず。即ち連山或は島嶼の四周を圍み強風長濤の侵入を防ぐものなしと雖此地は暴風に襲はるゝ事殆んどなく又四時信風の強盛なるもの稀なるを以て港内靜穩にして常に翻々たる小舟帆を掲げて往來するを見る。港は面積廣く收容力大にして水深亦適當なり。本港は歐人の所謂東亞の關門と稱する處にして東航する船舶も西往する船舶も悉く皆寄港するを以て市街繁榮なり。附近に蘭領多ければ蘭船の出入するもの甚だ多く之に次ぐものは英國、佛國、及び本邦の商船なり。

本島の英國に屬せざりし以前は多く言ふに足らず馬來人の記する所によれば十五世紀以後葡萄牙西班牙及び和蘭船の寄港するものありて通商貿易行はれたりと云ふ。十九世紀の初頭千八百十九年二月當時「スマトラ」島の南西岸なる英領植民地「ベンクーレン」の一官吏たりし英人「サードーマス、スタンフォ

「ド、ラツフルス」の盡力により新嘉坡の領主たる「ジョホール」王と條約を結び一部を英國に讓步せしめたりしが英國領有の初に當り和蘭の強硬なる抗議に對し英國政府は放棄の意志ありしも「ラツフルス」氏の熱烈なる愛國心に動かされ此樞要なる關門の基礎を固むる事を得たり。

本港は東洋南洋及び歐洲各國の商品伸繼港即ち通過港にして生産及び消費の額多きにわらず、輸出品中主要なるものは錫及び錫鑛にして之に次ぐは米なり。其他阿片綿製品染料及び獸皮等皆多少の額を占む。近時此地方護謨の栽培盛にして其性質亦善良なるを以て漸次有望なる輸出品たるべき見込みあり。邦人の此業に従事するもの亦多く將來該業の發展大に期待し得べし。

本艦は第一特務艦隊司令官の命により日没より日出時迄上甲板に於ては艦内一切の燈火を消し中下甲板は舷窓の鐵蓋を閉ざし光線の舷外に漏るゝ事なからしめ哨兵を配置し砲側に彈藥を準備して咄嗟の際直に發砲するを得せしめ探照

燈に配員して一令の下に點燈し敵を照射する事を得せしめたり。用意は周到ならざるべからず。計畫は細心ならざるべからず。本艦の威力を以てすれば鎧袖一觸だに價せざる敵の假裝巡洋艦に對し碇泊中の本艦は尙此用意を爲す之れ實に吾が海軍の精銳なる所以なり。唯艦内は之れがため中下甲板の溫度非常に上昇し屢々到底室内に睡眠する事能はざる事ありたり。汽罐は常に汽釀し發電機は絶えず回轉しつゝある際舷窓は閉され外氣との流通を杜絶せり。艦内の溫度上昇するは理の當然なり。若し釜中に坐すと云ふ語を實現する時期を問ふものあらば現在に於ける吾人の境遇なりと答へん。

一八 講演を聴く

大谷光瑞師の當方面に放浪するを聞くや久し偶々三井物産株式會社支店長の社宅に於て講演の開催あるを聞き早朝艦を出で聴講に赴く。待つ事暫時にして光瑞師來り別室に於て少時間主客談笑に耽けりたり。其態度を觀るに謙抑にして閑雅平民的にして而かも高尚なり。佛教不振の今日斯人をして斯地に放浪せしめ遂に還俗を斷行せしむるに至りしは抑も本願寺の所爲か社會の罪か將た又現在の佛教の規模の小なるは師が脱線的大望を満足せしむるに足らざるの致す所乎。

佛教の奮はざるや久し。其原因する所多しと雖も蓋し德望一世を覆ひて全宗を率ゆる人物の欠乏せるは其主因たるべし。積學の人はあり、雄辯の士は多し。唯々仰いて一宗の師表たるべく慈悲忍辱の法衣の袖にて衆生を感化し現世を濟

度し得る人は殆んどなし。光瑞師は名門に生れ學德兼備にして一宗の信賴を負ひながら百萬の信徒に背き法衣を棄つる事弊履の如く還俗して省みず惜みても尙餘りありと云ふべし。今日師は佛教を去れりと雖も其信仰を失ひ其主義を變じたるにあらざるは勿論なり。然れども局外者を以て之を見れば師は其天職を拋棄し自己の大使命を果たさず難を避けて易に就きたるの譏を免れざるが如し。講演の要に曰く

机上にある書籍團扇の如きもの形相相異れども等しく植物性の纖維より成るものにして尙之を分析すれば窒素炭素水素其他の物質となり肉眼を以て見るべからざれども同一の物質たるを知る。只今日は其形貌を異にするのみ。故に無相は實相なり。有相は無相なりと云ふを得べし。即ち是等の物體は現在には有相なれども應て無相たる氣體と化し而して此無相たる氣體は之れ實相たるなり。吾人の肉體も亦斯の如し。人間死亡後各其元素に還元し空中に放散し終る。

涅槃を説かんとするに知識階級の人及び愚夫愚婦に向つて一様に満足を與ふるためには極樂を持ち出す必要あり。即ち極樂によりて涅槃を示し死後何の苦痛もなく何の悲哀もなき樂天地の境遇を表はして大衆を教へたるなり。

靈魂の不滅なるべきは勿論にして吾人の無量壽なる事亦論ずる迄もなし。而して吾人の肉體は死後空氣に還元し吾人の子孫は之を呼吸して間接に亡き父祖と相接し又世を隔て、妻子とも交通する事を得べし。只此の現世に於ける人間の智識は甚だ低級にして誤謬のみ多し。例へば暗黒の中に物を見る事能はざるは肉體の具有する兩眼が不完全なればなり。疾病のために苦痛を感ずるは神經制度の不備なる肉體を有すればなり。然れども吾人は未來に不思議なる能力を收得する時機あり。

昔印度に「アバロキテシバラ」なる人あり。觀世音大士と譯し又觀自在大士とも稱す。大士の事蹟を説ける經典は觀無量壽經と妙法蓮華經とす。前者は大

士の形相を説き後者は大士の能力を説けり。即ち大士は極樂國主本師法王無量壽如來の命を承け其無限量なる能力を享受し天下衆生の慈悲の爲めに之を捧げたり。別に大勢至菩薩には無限量なる能力を授け之を智慧の爲めに活動せしむ故に大士は一切衆生の現狀を觀じ其音を聞き其苦悶を助け艱難を救ふ大士の慈悲の終極は衆生をして極樂淨土に收容せんとするにあり。觀音菩薩の名は能く人口に膾炙せし所にして日本支那及び蒙古に於て尊崇する所なり。吾人は其時代と懸隔する事甚しけれども今後數十年の後には大往生を遂げ極樂に行き現世に於て不可思議と稱せらるゝ能力を享受せんとす云々と。

僅々一時間餘の講演なり。又此講演は前後數回に涉りて完成すべき者にして吾人は唯一回を聴講せしに止ると雖も師の説く所現世の思想行爲の批判に觸れず。科學的學究的迷信的なり。吾人の如く勸善懲惡を尙び因果應報を信ずるものには聊か物足らざるを感じたり。然れども論鋒の多方面に涉り行くとして可

ならざるはなく聞くもの皆其博覽強記なるに感ぜざるはなし。且つ能辯にして
少しも激む事なく反覆叮嚀に説きて唯聽者の理解せざるを虞るゝの状ありたり。
之れ師の濟世救民の志厚く陰に後日の大成を期する所以を知るに足るなり。

一九 故高橋少佐を追想す

五月十六日本艦は新嘉坡を出港し「スマトラ」「ボルネオ」の間に散在する叢
島の間を通過して「スンダ」海峡を出で愈々印度洋に進出せり。

去る明治三十六年四月當時少將たりし故上村大將の指揮下に松島橋立嚴島の
三景艦練習艦隊を組織し舳艫相啣みて「ジャバ」の「バタビヤ」より濠洲「フリ
マントル」に到る途中「スンダ」海峡を出たる翌日日没の景暗赤色を呈して鬱
熱甚だしく將た没せんとする大陽の上邊に於て大容積の黄色雲の團塊を見たり
しが其翌日果して猛烈なる颶風に襲はれ晴雨計の示度二八、九五に到り艦體
は山の如き大濤に翻弄せられ隊列を制る能はず。三艦各針路を定め其中心を避
けん事を企て遂に相失するに至り予が乗艦たりし嚴島のみ巧みに定針し其中心
を避け得て安全に目的地に到達する事を得たりしが他の二艦は侵水のため炭水

の缺乏を來し濠洲の北西岸に漂着したり。其當時嚴島航海長たりし故海軍少佐高橋雄一氏は非常の精力を發揮せられ二晝夜間全然不眠不休の状態にて艦橋を離れず。風向を考へ雲形を觀じ艦の操縦宜しきを得て首尾能く目的地に到達したるなり。

故少佐は予等の海軍兵學校に於ける航海術教官にして頭腦明晰講義丁寧懇切而も嚴格にして精勵衆生皆悦服する所なりき。練習艦隊の組織せらるゝに及んで擢んでられて嚴島の航海長となり濠洲を一週する遠洋航海に於て大に名聲を擧げたり。蓋し此艦隊の豫定航路たる濠洲一週は吾が海軍最初の壯舉にして其の當時に於ては多少危懼を懷きたりき。是を以て其航海長には學識經驗の兩方面より人選して大任を授けたるなり。歸朝後日露戰爭開始に及び第三艦隊副官に補せられ司令長官片岡中將の幕僚として八月十日の黃海々戰に参加せり。當時旗艦は日進にして主隊と共に行動し奮戰甚だ勉めたり。副官高橋少佐は後艦

橋にあり長官を補佐して戰機を考察しつゝ、ありし際偶々敵の巨彈後艦橋に爆裂し當時其處に在りし齋藤艦隊機關長松本參謀横山參謀及び數名の幕僚附と共に粉粹されて纔かに首級のみ後部甲板に残りしと云ふ。故少佐は曾て日清戰爭清國事變の二戰役に従事し功績尠からず勳章胸間に燦然たりしが日露戰役の功により金鵝勳章功四級及び旭日小綬章を授與せらる。之れ實に錦上更に花を加ふるものもと云ふべし。

生前に於ける故少佐の經歷は華麗なりき。故少佐の潑刺たる才鋒は至る處適せざるものなく銳利にして觸るれば切れんの慨ありしが其の最後の狀何ぞ壯烈なるや。

故少佐は弘前の人幼にして俊英群童を抜き夙に大志を懷き優秀なる成績を以て海軍兵學校卒業以來諸般の修養怠らず人格の高潔にして剛直なる事稀に見る好男子なりしが天斯人に年を假さず。未成品たる偉器遂に大成を見る事能はざ

りしは惜しみても尙餘りあり。

少佐戦歿の當時家に花の如き少女あり年僅に四歳爾來春風秋風十三星霜少女正に長じて妙齡の美人たり。予等は徒らに馬齢を重ねるのみにして故少佐の眷顧に對し何等の報恩する所なかりしを愧づ。

予は今日何の因縁する所あるか故少佐の臨終の艦たりし軍艦日進に乗組み十四年前故少佐指導の下に航海せし「フリマントル」の航路にあり。其當時颶風に來襲されたる印度洋に浮び昔を想ひて追想の涙滂沱たるものあり。印度洋の水は永へに緑を湛へて變る事なし。然れども恩師の尊容は永久に之を見る事を得ざるを悲しむ

ありし世のそのおもかげをしのとや

君かいまわのそのみふねにて

沈思瞑目して思を十四年前に馳すれば故少佐の嚴格にして慈愛に富む俤眼

前に髣髴たり。故少佐の長所は精力絶倫にして紛糾したる事務を快刀亂麻を絶つが如く裁斷するにあり。特に航海術の造詣に至つては實に深遠にして精透最も艦長の信用する所たりき。

若し故少佐に缺點ありと假定すればそは懐持する主義を固執して忌憚なく行動するにあり。之れがため周圍に多少の敵を作る事あるも殆んど懸念する處に非るが如し。之れ其主義に忠實なるものにして硬骨男子の面目躍如たるなり。

故少佐職を奉ずる事忠にして部下を鞭撻する事巧みなれば何の職にありても成績發揚し身を持つる事嚴にして言行苟もせざれば常に端然冒すべからず。而して態く後進を指導し部下を愛撫す。

故少佐若し今日存在すれば樞要の位置にあるべし。吾が海軍の前途は實に多望なり。故少佐の如き英才を期待する事大早の雲霓を望むが如し。而して今や亡し。人生は蓬草離々霜を迎へて枯るゝに似て達觀すれば實に一場の夢なる哉。

二〇 南洋政策

「スンダ」海峡を出で針路を南十八度東に定めたりしに今日まで池水の如く静穏なりし海面は風無けれども南方より長濤襲ひ來り艦隊は前後左右に動搖す。此狀況は約三日間連續し横須賀出航以來最大の動搖と傾斜とを感じたり。

「スンダ」海峡は軍事上實に重要な地點なり。海峡の中央に「スワートウエー」島を有し廣さ約十湮水深くして二十乃至七十尋大艦巨舶容易に通過し得べく兩岸に「ジャバ」・「スマトラ」の大島を横へ「ジャバ」海より印度洋に進出する要路なり。尙北に「マラッカ」海峡東に「チモール」其他の水路なきに非るも濠洲方面に航海するために當然通過せざるべからざる樞要の地なり。又熱帯地方の常として珊瑚礁の暗岩多く航海困難なり。且つ南洋方面は水深の精測を経ざる地域多くして危険の之に伴ふものなることを覺悟せざるべからず。然るに「ス

ンダ」海峡に到る水路は比較的是等の危険少し。

南洋に於ける富庫は「ジャバ」を推して壓卷となさざるべからず。其住民の多きと其物産の豊富なる點に於て遠く群島に傑出するものあり。之實に和蘭の最大なる富源たり。而して「スンダ」海峡は其富源を威嚇すべき重要な地點にありて南北の交通を司る管鍵なり。

往年保坂海軍大佐は淀艦長として南洋巡航をなし氣候風土及び物産等を詳細に調査し以て植民政策を攻究したる結果「セレベス」島を以て最も植民に適當となし江湖に推薦したり。之れ適切なる見解にして吾人の双手を舉げて賛成する所なり。即ち其氣候の順適なる其住民の稀薄なる其土地の豊饒なる又其主權國の移民を歓迎する等實に好適の地なり。

其他「スマトラ」「ボルネオ」「ニューギニヤ」等は總て豊富なる雨量と不斷の熱量とにより地味皆膏腴にして人口尙稀薄なり。栽培業として護謨、胡椒、

珈琲、椰子、米、茶等有望にして大に發展の見込あり。鑛産として石油、錫、石炭、鐵、金、銀、金剛石等あるのみならず未知の鑛區存生するは疑を容れず。又之等の諸島は局外者の想像する如く氣温高からざれども變化少き爲め人體に倦怠を感ぜしむるの缺點あり。然れども高山の山腹は好避暑地たる所多し。

南洋は以上の如く重要な地點を包含す。吾が帝國の殖民政策は其根本義として北守南進ならざるべからず。北方は冬季氷雪の妨ありて耕稼意の如くならず。加之勞多くして穫少く特殊の事業の外適當ならず。之に反して熱帶地方は天然の恩惠豊に物産多し而も住民稀薄にして「セレベス」の如きは一方哩僅かに十二人「ポルネヲ」の如きは尙降て一方哩五人なり。我が帝國は人口の密度に於て世界中第四位にあり。即ち一平萬哩三百六十二、七なり。之は北海道の如き廣漠たる土地を含みて計上したるなり。帝國國運の發展は隆々として旭日冲天の概あり。而して人民生産の増殖率明治四十二年より大正二年迄の統計によ

れば千人に就き十四、七八人あり。之を歐洲諸國に比するに僅かに歐洲大戰以前の塞爾比亞勃牙利亞の二國に遜るのみ。其他何れの國よりも大なり。宜しく氣概ある男子家貧にして祖先傳來の田地に衣食するを甘んぜざるもの或は國家百年の大計を慮り堅忍にして大志を懷くもの皆進んで黄金花咲く南方の富源に殖民すべきなり。之と同時に政府は須らく移民を奨勵する法を講ぜざるべからず。即ち航路を擴張し或は之を保護して發達せしめ移民に對しては官費を以て送還する等の特點を興へ物資の供給を便にし或は貨物の運賃を輕減する等の方法を採用すべきなり。

衣斐法學博士は國防叢書第一卷たる帝國々難論に叫んで曰く「將來南東海表に於ける帝國々防の第一線は「マラツカ」海峡或は「スンダ」海峡と東京とを連ねたる直線を半徑として畫きし半圓にして第二線は臺灣と東京とを連ねたる直線を半徑として畫きし半圓ならざるべからず」と。吾人は此言の凱切なるを

感ずると共に海軍力の充實を實現し得るならば國防の防禦線を理想的に延伸し裸體的國防の危険を避け劫初以來の民族が經驗し來り又未來永劫絶えざる國難に際し前進根據地と策應して多年訓練されたる吾人の技術を充分行使せしむるを以て得策とす。

軍艦旗の進む處常に商權の之に伴ふものなり。帝國の軍艦旗は旭日を象徴す。而して遣外の軍艦は帝國主權の一部の移動なり。試みに見よ、山の如き艦體怒濤を蹴つて進み行く時艦尾に翻騰たる軍艦旗の如何に勇ましきよ。又見よ、旭日旗堂々として入港する時其地の居留民が如何に歡呼して迎ふるかを。帝國の國運をして軍艦旗の旭日の如く榮えしめんとせば軍艦旗の後に國旗を樹てたる殖民を進ましめざるべからず。

吾人は新刊の「ファイトング、シップ」を繙く毎に英米の軍艦製造の敏速にして通商貿易の積極的なるを感ぜざるはなし。特に米國は無限の富力を傾倒して海軍の擴張をなし戰艦巡洋戰艦相續いて進水し月を重ね年を追ひて帝國海軍との懸隔益々甚だしからんとす。

太平洋に雄飛すべき海軍と海上權の掌握とは成るの日に成るにわらず。由て來る所遠し。艦を造り人を養ひ訓練を重ねる等原因する所遠大なり。而して今日遅くるれば今日の損あり。今年遅くるれば今年丈け人後に立たざるべからず。固より軍艦を建造せんとせば莫大なる經費を要すべし。國本を培養せずして軍備を増大するは恰かを木偶に堅甲を被らしむるが如しと雖海上權を占めたる軍艦旗を先進せしめ商船をして安んじて航海せしめ以て通商貿易の發展を圖るは知ある爲政者のとる所なり。事業は宜しく積極的なるべく消極的なるべくならず。國防の要義も亦然り。佐藤海軍中將曰く「堅甲を被むるは國防の本義にわらず。利劍を携ふるにわらずんば自衛の道を全ふする事能はず」と國難に際し帝國は如何に沿岸に防備を堅ふし砲臺を築き探照燈を装置し或は防材を設け機械水雷

を敷設して防禦すと雖之れ畢竟劣敗者の消極的手段のみ。亡國的施設のみ。新興國の海軍は常に攻撃的ならざるべからず。然らざれば士氣の頹廢を如何せん。之れ實に國家興亡の岐るゝ所にして局に當るもの銘記せざるべからざる所なり。

國際聯盟は勿論平和の保障に非ず。例令へ百の國際聯盟ありと雖民族的公憤を防遏し得るものなかるべし。伊太利の英雄的詩人は突如義勇兵を率ひて「ヒューメ」に進入し之を占領せり。佛國は些細なる理由により不意に獨逸の「フランクフォルト」の外重要な都市五個を占領せり。之れ皆國際聯盟成るの後一年に満たざるに既に斯の如し。國防は國際聯盟の力を以てするも獨立國の自國防衛上必然の要求を掣肘し得る性質のものに非ず。若し強ひに之を爲さんとせば戰禍に對する確實なる保證を要すべし。又一國の國論は政黨勢力の消長に關聯して變移する事米國は靚面に之を證明せり。天は自ら助くるものを助くるなり。何ぞ獨立國の平和の維持を以て之を國際聯盟に託するを得んや。

此近海に飛魚艦首に飛ぶ事頻りなり。十一節の速力を以て疾驅する本艦は印度洋の魚群を驚すこと大なり。彼等は平和なる交遊場裡に不意に巨大なる怪物の突進し來るを見狼狽して八方に逃避するなるべし。國際の關係亦此魚群に類するなきを得んや。平和なりし白耳義の首府「ブラッセル」に月を賞し花を愛でし都人にして數年前誰れか巨大なる獨逸てふ怪物の突進し來るを豫期せしものあらんや。國亡びて山河在り。家を失ひ産を亡ひたる老幼婦女の罪なくして他國に流浪し衣食に困苦する狀を憫むの前に於て吾人は宜しく實力の前には何等人爲的の法律なしと云ふ獨逸式格言の用ひらるゝ時期ある事を豫期せざるべからず。

二一 英艦護衛

「フリマントル」に入港せしは五月二十五日午後一時にして翌二十六日は總員夜を徹して石炭一千噸を積載し其翌二十七日日本艦は英船「モンガラ」を「コロンボ」迄護衛する任務を以て「フリマントル」を出港せり。

「モンガラ」は總噸數一萬八百噸其載貨茶麥及び其他の糧食にして乗客四十人なり。軍艦日進は長航海の後乗員の休養を犠牲とし出港前英船載貨の内容を調査する事なく約九百噸の石炭を消費し三千二百哩の彼方なる「コロンボ」迄只一隻の重要ならざる貨物を積載せる英艦護衛の任に就きたり。

其夕士官室内に議論沸騰せり。甲曰く英船何者ぞ帝國の一等巡洋艦にて彼の如き普通の商船一隻を護衛して「コロンボ」に到らんとするは甚だ勿體なし。見よ、日本の大商船は現在護衛なくして歐洲航路を進航しつゝあるにわらずや。

多數の運送船に陸軍々人を積載するものならば護衛も意義あり價值ありと雖今回の護衛の如きは日本帝國の國威を損ずるものなり云々と。乙曰く司令官は訓令を以て英艦護衛の範圍及び出港の期日を艦長に一任しあるなり。英船の内容隻數及び出港期日等に關する交渉は艦長之に當りたるを以て責は全然艦長に在り。艦長の平素の言行に鑑み彼の不當なる要求に對し唯々諾々として其要求に應ぜしには非るか。熱帯地方の苦熱の中より辛じて此冷涼なる地に來りしを喜びたるも東の間にて再び焦熱の地に行かざるべからず。帝國の重要な運送船ならば萬死を厭はずと雖予の嫌忌する英國の爲めに犬馬の勞を執るは不快に堪へず云々と丙曰く唯護衛するのみなるを以て簡單なる規約信號を定め置けば足るなり。本艦の分隊長一名を彼の船に派遣し二週日の間艦務を廢せしむるが如きは策の最も不可なるものなり云々と。丁曰く英船載貨の何なるやを調査せず。若し監督將校手旗信號によりて内容を報告するにあらざれば吾人は其載貨を知

る能はざるなり。而して此時濠洲官憲の利己的なる交渉に對し一言の下に護衛の快諾を與へ富有ならざる帝國は高價なる英炭の九百噸時價約九萬圓を消費し印度洋を縦斷して熱帶の地に航海せんとす。英國は好意を感謝すべし。否黃奴甚だ與みし易しと冷笑するやに非ずや云々と。

予は今日之に對し多く論ずるの不能なるを知る。唯軍艦春日は數日前同一の地點を發し同一の行動を執りしが彼は「フ」港に約十日間休養し英船六隻を護衛し乍ら一人の監督官を派遣せず簡單なる規約信號にて圓滑に任務を結了せるの事實を記載するに止む。

英國の外交政略の利己的なるは既往に徴し現在に省みて識者の皆首肯する所なり。日獨戰爭開始の曉帝國艦隊の行動に關し彼は我が政府に交渉し來りし事實の如何に利己的にして狡猾なりしよ。勞は之を我に勸め利は之を自ら收めんとせしにあらずや。予は英國人に多少の知己を有す。彼等は皆個人としては紳

士的にして且つ親切なり然れども外交場裏に於ける英國の態度は常に殆んど別人を見るが如し。

吾人は日露戰爭當時に於て英國海軍が吾が艦隊に盡せし好意を忘るゝものにあらず。吾人は十年間之等の好意に對して陰に陽に酬ゆる所ありしを知る。借金は數年前已に拂はれたり。今日は平等に交際すべき權利を有す。新嘉坡顯要の地位にある某氏の言明する所によれば日本艦隊の今日の行動に對し英國は更に感謝の念なく却つて不足を唱ふる事ありと云ふ。

古の名臣は外邦に使用して君命を辱しめず。吾人の論ずる所は唯此一點なり。勞力休養及び費用の如きは多く言ふの要なし。遣外の軍艦は帝國の領土の一部の移動なり。之を指揮するものは或る意味に於て外交官なり。艦長は艦長に與へられたる權能により外國官憲と交渉するに務めて威信を持し正理に従ひ苟も「エース」の安賣をなすべからず。當時の時勢に鑑み彼我の均衡を考へ又本艦の

航海程度等を考慮して而して後諾否を決すべきなり。即ち充分自尊心を以て應じ片務的の要求に對し輕々しく承諾を與ふる事なく益々國威を宣揚されん事を熱望して止まず。

十三日間の航海に於て本艦は「モンガラ」の甚だしく遅くる、事あれば回轉數を減じて之を待ち合せ或は左右に出づる事あれば本艦自ら其先頭に進出して指導する等懇切至れり盡せりと雖も尙規約信號に従はず或は距離を甚しく遠ざくる等の事ありたり。然れども之れ軍艦の如く隊列を編成するに慣れざるの致す所にして止むを得ざるなり。

六月九日無事「コロンボ」に着し以て任務を結了す。

一一一 「エムデン」を「吊す

六月二十三日午後二時本艦の右舷一哩の距離に英領「ノースキーリング」島を望み其南岸に獨逸の勇敢なる軍艦「エムデン」の殘骸横はるを見て感慨無量なりき。

「ノースキーリング」島は珊瑚礁にして環形をなし樹木甚だ能く繁茂し特に椰子の簇生するを見る。「サウス、キーリング」島は一名「ココス」島と云ひ前者を距る事南方に十五哩約二十個の珊瑚礁より成り周圍二十二哩是亦珊瑚礁特有の環形をなし椰子樹繁茂せり。本島は千六百八年「ケプテン、ウイリアム、キーリング」の發見する所にして現在人口約七百人歐洲人の小數と支那人馬來人住居せり。環形の北側は水深適當にして汽船の碇泊に適す。本島には無線電信柱ありて軍事上の通信を便じ又有線電信の設備ありて「シンガポール」「バタビヤ」

「フリマントル」「ナタル」「シーチエルス」「ザンヂバル」及び「マウリヤ」に通ずる事を得。産物として「コブラ」を輸出する事甚だ多く一九〇二年には價格一三、〇〇〇「パウンド」に達せり。又記録の示す所によれば本島は屢々颶風の襲來に遇ふ所にして一九〇九年の颶風には晴雨計の示度實に二七、九六に達し樹木十萬本を折りしと言ふ。其晴雨計の示度より考ふるも其の被害の大きより察すると到底本邦沿岸に於て見る事を得ざる激烈のものなりしならん。今其當時に遡り「エムデン」に就き少しく記述せしめよ。

大正三年八月の初め露佛に對し宣戰を布告せりとの報に接したる青島碇泊中の「エムデン」艦長は直ちに積極的に露佛艦に奇襲を加へんとして上海長崎間の航路に向ひて突進し來りしが露佛艦に會はざりしも露船一隻を捕獲せり。「エムデン」は戰の首途に於て既に計畫勇壯にして士氣昂然たり。而して「エムデン」は排水量僅かに三五四噸速力二五節兵裝四、一時砲十門水中發射管一七、七

吋二門を有する一小軍艦なり。

八月二日上海長崎航路上に於て「エムデン」艦長「フォン、ミュラー」中佐は總員に左の訓示をなせり。

青島無電によれば「カイザー」陛下は八月一日を以て陸海軍全部に動員を命じ給へり。露軍の獨領に侵入したる當然の結果として我帝國は露佛と交戰状態に入れり。

吾人の多年期待せる事件は今や突發せり。敵は正式の宣戰布告をなさずして我が獨國に侵入せり。從來獨國は敵を征服すべき幾多の好機を有せしに拘らず四十四年間軍刀を鞘に收めて暴力に訴ふるが如き事なかりき。獨國は平和的競争場裡に於て工業に依り通商貿易により高遠なる理想と文化とにより誠實と慎重とに依りて宇内に光榮ある位置を占めたり。之れ吾人と競争し能はざる敵國をして我國に對し嫉妬を懷かしむるに至れる原因なり。敵國の或は教育訓練に

於て或は學術工藝に於て尙一言にして言へば高等文化に於て獨國の平和的事業に於ける成功を凌駕するの不可能なるを知るや如上の嫉妬は轉じて狂暴なる戰爭を惹起するに至らしめ彼等の精神的道義的能力の及ばざる問題を干戈に訴へて解決せんとするに至れり。今や吾人生粹の獨國民は戰爭の試練に堪へ得る事を示すの好時機來れり。

抑々戰爭は容易なる事業にあらず。敵國は多年之が準備に吸々たりしなり。帝國の興敗此戰爭に在りとは夢寐にも忘るべからざる箴語とせざるべからず。縱し全世界は我に對し起つとも吾人は祖先傳來の名を辱しめざらんが爲めに最後まで戦はざるべからず。

本職は劈頭第一に浦鹽方面に向て攻勢を採らんとす。而して吾人の主なる任務は通商破壊にあり。情報に依れば露佛の軍艦は浦鹽附近に集合せんとするが如し。故に吾人は彼等に遭遇すべき機會ありと信ず。此際予は安んじて我が全

乗員の手腕に依頼し得べきを知る。

読み來り読み去りて感嘆之を久ふす。之れ開戦に臨みて爲せる訓示の模範として賞讃するに値す。其後段に於て祖先を尊び名譽を重んじ全世界を敵として最後まで戦ふに到りては勇敢決死の精神躍如たるを認む。又三千餘噸の小艦を提げて浦鹽方面攻撃の壯舉に出でたりしは實に獨逸魄の精髓なり此艦長に指導され教化されたる「エムデン」乗員の勇敢なりしも故ある哉。

後「エムデン」は主力に會合せんが爲め南下し「バンカ」島に於て艦長は艦隊司令長官に伺候したる際印度洋に於て通商破壊戦に任ぜられん事を提議し八月十三日許されて分遣さるゝ事となれり。

分遣したる後「コース」島に撃滅さるゝまでは實に「エムデン」の黄金時代にして航海を重ねる事九千四百俵商船を沈めし事英船十五隻捕獲せし事英露希船合して八隻加之露艦「ゼムチューグ」の波南に碇泊しあるものを雷沈し佛驅

逐艦「ムースキー」を砲沈し總噸數八萬噸時價一億圓以上を喪失せしめ英國海軍の名聲を大に失墜せしめ交通を一時的に杜絶せしめ且つ航海者及び沿岸の人民に甚しき不安を與へたりしは海戰史に特等すべき事蹟なりとす。特に露艦「ゼムチューグ」を撃沈せし事實の如きに至りては獨露兩國人の氣質を無遠慮に曝露せるものと云ふべし。始め「ゼムチューグ」艦長は附近に於て頻々と「エムデン」のため被害ありしを知り乍ら彼南碇泊中十月廿八日拂曉全然戰鬥準備を爲さず。哨兵を配置せず。當直として僅に信號兵一人の見張をなさしめ汽罐は十六個の中十三個を修理し残り三個の中一個のみ汽釀し置けり。而して自己は連日陸上旅館に宿泊して流連せり。之れ實に常識を以て律すべからざる怠慢放肆の極なりと稱すべし。以上の状態にありしとき日出前に彼南港に突入したる「エムデン」の魚雷襲撃は其の功を奏し尙之れに加ふるに近距砲撃を以てし首尾能く撃沈せしなり。又佛國驅逐艦「ムースキー」は彼南港外に哨艦とし出動し早

朝歸港の際「エムデン」は擬製煙突を増置しありしを以て英艦「ヤーマス」と誤認し何の準備もなく近接せしとき「エムデン」は急に獨逸軍艦旗を掲げて砲撃し遂に撃沈せり。

此彼南戰鬥は「エムデン」艦長の機敏と權略とを見るべし。拂曉を選みて突進し擬製煙突を以て敵の注意を惑亂せしは吾人に幾多の好教訓を示すものなり。兵は詭道なり。怠るもの因より罪ありと雖も先んずれば人を制す攻勢を探れば多くの場合に於て成功するものなり。

願て「エムデン」の境遇を観察すれば孤城落日の感を禁ずる能はず。此附近悉く敵地にあらざれば中立國にして更に休養の地なく青島の陥落は目前に逼り友艦は遠く南米の地に行き西陲僅存臣武光の慨ありしなり。此時此謀を用ひ此冒險を敢てし聯合軍の心膽を寒からしめたり。偉なりと云ふべし。

「エムデン」は如上の大功を奏し意氣揚々として南下し「シマラー」島沖に於

て率ゆる給炭船「ブレスク」より採炭し後英領「コス」島に向ひ同島の無線電信機及び有線電信装置を破壊し一時同島を占領せり。其時軍艦伊吹及び英艦「メルボルン」「シドニー」は濠洲陸兵二萬八千五百を載せたる運送船三十八隻を護衛し「フリマントル」より「コロンボ」に向ひ十一月九日正午「ココス」島の正東約九十哩を北西に航しつゝありしが同島より怪しき軍艦港口に見ゆとの警報に接し「メルボルン」の先任艦長は僚艦「シドニー」を派遣して之に當らしむ。是に於て「シドニー」對「エムデン」に海戦開始されたり。「エムデン」は陸戦隊を陸上に派遣しあるに拘らず勢力遙に優れる英艦に對し敢然として攻勢に出でしも物質上の優劣は終に如何ともする事能はず。刀折れ矢盡きて而して後自ら「コス」に乗せ上げて破壊せり。

「シドニー」は排水量五四〇〇噸速力二六節兵裝六吋砲八門四、一吋砲十門發射管二吋二門水中發射管一七、七吋二門を有する二等巡洋艦なり。戦闘の緒

戦期に於て「エムデン」の射弾は命中率多く「シドニー」頗る苦戦せり。加之測距器二個を破壊せられ正確なる射程を得るに困難せしが命中弾によりて射程を決定せしより漸次勢力を恢復し遂に一時四十分間の後撃破する事を得たり。

「エムデン」の印度洋に跳梁跋扈するや日英露佛の軍艦在新嘉坡英國支那艦隊司令長官の下に協同策戦に従事せしもの初期に於て十一隻を算し其後帝國は英國の請求に應じて三隻を増遣し濠洲艦隊及び東印度艦隊の参加するありて總計二十五隻の多數となれり。「エムデン」は此の間に於て神出鬼沒機敏にして慎重なる舉動は常に搜索艦をして奔命に苦しませしめたり。因より支那艦隊司令長官の「エムデン」撃滅に對する方針は定見なくして朝令暮改の嫌あり。且つ通信連絡不備にして用意周到ならざるものありしに由ると雖又我艦隊に對し英國一流の利害上より打算し勞を興へて功を奪はんとせし形跡なきに非ず。即ち常に功を願つ事を惜みて嫉妬を絶たざりしが如し。聯合軍は之等の要素相重りて

趨起逡巡せし時遂に「エムデン」艦長をして大に名を成さしめたり。

嗚呼「エムデン」没落して茲に三年其乗員の愛國的勇敢なる精神は以て永く吾人後進者を鼓舞するに足り其赫々たる事蹟は以て獨逸の海戦史を飾るに足らん。彼女滅びて餘榮ありと言ふべし。唯「ココス」島は依然として英國に屬し島頂高く「ユニオンジャック」の翻るを見る。即ち吾人をして優大なる海軍は最終に於て勝利者たる事の確信を得せしめたり。

二二二 印度洋の日没

「フリマントル」を出しより愉快なる航海を續け今や本艦は「コロンボ」に向ひ南緯二度の附近を航走しつゝあり。

六月六日將に暮れんとして夕陽西天を焦がし日没後尙一段の光彩を添へ天の一半に燃ゆるが如き彩雲層々相連り或は騰龍の如く或は嘯虎の如き形をなし天地皆紅化せんとして美麗例へんものなく水天相接する邊は一帶に紫の幕を引きたるが如く見るもの皆恍惚たらざるはなし。赤道直下大印洋の日没に於て始めて如斯美觀を見るを得べし。

三千二百哩の航程短しと爲さず。目に觸るゝもの一碧淼茫たる海面と日月星辰を宿せる大空のみ。頃日好天氣打續き晝は赫々たる太陽大空を我物顔に獨占して一片の雲翳を認めず。平波鏡に似て艦脚滑るが如く夜は星辰燦爛として空

氣澄明月洋心に宿れば瑠璃盤上白銀を碎き薫風面を吹けば灑激たる細波盡くが如し。此時艦上の人皆心身共に爽快なり。予は茲に於て明治天皇の「あさみどり」の御詠を口誦して心氣更らに濶然たるを覺えたりき。

廣大なる印度洋無限なる大空顧みて人間界を見れば人は怒り人は悲み或は怨み或は罵り兄弟牆に鬩き朋友相陷穿し小なる社會に跼蹐して天地の廣大に觸れざるもの、如し。吾人は今眼前に展開されたる悠々たる大自然に對し之を人事の曲折煩雜なるに比すれば恰も蜉蝣を天地に寄するの感なき能はず。予は再び「あさみどり」の御詠を誦して天地の無限に冥合すれば蘇東坡にあらざるも羽化して登仙するが如く遙に下界に在る人類の蠢動を望み其事業の規模の小なるを憐まずんばあるべからず。希くは自己の四周に對し曠恚の炎を去り怨恨の賊を退け胸中常に光風霽月の如く部下に對しては之を愛し之を憐み能あるものは之を揮はしめ無きものは之を開發しめよ。

今や此大自然の懷に抱かれたる罪の子は浩然の氣に感じて俗腸を清洗され神身を淨化されたる喜ぶ。予は此見地に於て海軍々人たるの幸福を感謝するものなり。

黃塵萬丈の街に於て營々として利を追ふの人或は酒地肉林に流連して只管物慾に捉はるゝ人をして一日艦上に在りて大洋の空氣を呼吸せしめよ。而して此大自然に對せしめよ。庶幾くは俗人を詩人化し商人を哲學者たらしむるならん。

日本男子の精粹を集めたる六百五十の壯夫浮世の春を他所に見て母國を距る五千哩の波に浮びつゝあり。地球の他の半面なる吾が親愛なる國土に於ては花は咲けども實は熟すれども波上の生活には何の關する所なく懷しき故郷の信書は三ヶ月を費して尙吾人の手に入らざる事あり。歸雁橋頭を掠めて家信を齎すが如き風流は得て望むべからず。唯海鷗の艦尾に群飛するものありて。旗竿に觸れ橋桁を摩して翻々る事胡蝶の花に戯るゝが如く其叫聲に一種の哀音を帯び

て餘韻あると羽毛の純白にして舉止優美なるとは純潔なる處女の嬌羞を含むものに似たるを見るのみ。

此一年間は徒に中天に徂徠する雲の行方を眺め五慾の外に超然として仙人を學びたりしが今夜の日没は盛装を凝らせる絶世の美人にや例ふべく舷を打つ不斷の濤聲は天使の樂にや比ふべし。此美人あり此天樂あり樂み自ら其中にありと云ふべし。

されど絶世の美人は果敢なくも數分間にして消え去り天使の樂は屢々強風のために悪魔の叫喚と變ずる事あり。數分は甚だ短しと雖も今之を天地の悠久なるに比ぶれば數分も數十年も何の差異なく無意味に之を聞けば天樂も叫喚も區別なし。心あるものは大自然の美に感じて造化の妙機に觸れ心なきものは空しく看過して記憶にだも止めず。紅鏡を以て見れば萬物總て紅化すべく善意を以て對すれば人生萬事喜悅を以て迎へらるゝものなり。噫神の攝理の尊さよ。

此瞑想の中にもりても弓矢執る身は瞬刻の由斷もなし。一陣の強風征衣の袂を拂ふ時水平線上遙に望む一抹の煤煙に敵や來ると双眼鏡を執りて凝視し一過の驟雨戎衣を濡す時仄に見ゆる汽燈の距離を測りて行進方向を探知し注意怠りなかりしも敵は遂に吾人の視界を遠かり本艦の周圍は常に平和と光榮とに満ちたりき。

光榮に包まれたる軍艦日進は印度洋の平和を確保せんが爲め靜穩なる波の上を行きつ戻りつ警めつゝあり。軍艦の生活は單調なる如くにして然らず。昨は錫蘭島の苦熱を凌ぎたる身の二週日ならずして濠洲の冬の眞盛に遇ふが如き季節の激變と青銅製裸體の五百羅漢の如き印度人を見慣れたる目にて雪白の皮膚に洋服を着け外套を被ひりて歩行する白人に接するが如く人情風俗の異様に會するは興味多き事なり。

二四 海水の色

春の緑濃き山の眺めは美しきものなり。然れども熱帯地方の珊瑚礁に囲まれたる海水の色は更に美しきものなり。緑と藍とを程能く溶き混ぜたるが清澄にして數尋の底まで透視され其の表面には綾織の細波を漂はし岸を彩る眞白き砂との好き調和は甚だ海上生活者を慰安するものなり。

一般に大陸の海岸に接近するに従ひ緑色の度増し洋心に行くに従ひて色淡し。之れ陸岸は微細なる植物絲藻硅藻泡藻の發生に好都合なるが故なり。

吾人は濠洲の西海岸に於て突然乳汁の如き色の海水に投入し一晝夜間其中を進行せし事あり其時不慮の災禍に備ふる爲め測深機を使用して深度を測定し其水深大なるを見て漸く意を安んじたりき。其後北太平洋に於て黄色の小植物夥しく發生せる海水に遭遇せり。即ち洋中數十哩の間細き黄色帯を爲して表面に

浮游しありたり。又「カリフォルニヤ」灣及び紅海等に於て屢々赤色微小有機物浮游せるに會する事あり。故に前者を朱海と稱し後者を紅海と名付たりと云ふ。吾が國に最も密接の關係を有する黒潮は四周の海水より色甚だ濃きを以つて此名あり。吾人は曾て瀬戸内海より外洋に出でんとせし時黒潮との分水界を通過し其水色の餘りに鮮明なる境界線を劃するを見て驚きたる事ありたり。

支那大陸を流るゝ揚子江及び黄河の濁流滔々として河口附近の海色を變じて汚濁せしめたるは海上生活者たる吾人に尠からざる悪感を與へしめ其殺風景は永き錨泊に耐へざらしむものなり。揚子江口沿岸及び附近の島嶼に生活する支那人は恐らくは人生の暗黒面に活動する思想の跳梁に任せて自然を讚美する麗はしき情操を有するもの無かるべしと思ふ。又朝鮮の西海岸は之れに注入する幾多の河流の爲めに海水常に汚濁せり。而して是等の河流は源を濫伐に因る禿山に發し途中陸地を溶解し黄濁して海に注ぐを以て西海岸の島嶼は皆泥濘を以

て圍れ海色も随つて不快なる黄綠色を呈せる所多し。吾人は此附近に投錨せる艦上にありて朝夕海上を眺望する時勿論何等の美觀を起さざるのみならず倦厭の情に堪へざる事あり。此境裡の住民より詩的高雅なる人生の至情を期待すべからざるは當然の事實なり。之に反して吾が對馬沿岸及び琉球諸島附近は常に海水清澄にして透明魚群の游泳を指呼し得べく海草の發生を透視し得べし。此地方の人情自ら優美にして平和なるも由來する所あるを推知し得べし。

雲色の反映は海水を變色せしむるものなり。晴天の日は眞實なる海色を見得べしと雖も曇天雨天の時は一般に灰色を帯びたる綠色となり大に美感を削減す。然れども日出没時に於ける雲の反映に因り海水を帶黄赤色ならしめたるは刹那の美觀を感ぜしむ。

其他記録の示す所によれば印度南方「マルヂウ」群島の周圍に於て海水の色黒く秘露の「リマ」港の水は橄欖色を呈し亞弗利加の「バルマス」岬附近及び

「ギニア」灣附近は乳色を爲す事ありと言ふ。

吾人は職務上艦橋に於ける遠望に際し海水の局部的變色を見て警戒し出來得れば之を回避して航行するを常とす。斯の如くして會々海圖未記の暗岩を發見する事あり。蓋し暗岩上の水色は深處の夫れと比し濃度大にして暗影を宿しつつあるなり。

暗夜の海上艦首に散る波の華は燐光を發し絢爛たる光彩を放ちて美麗なり。所謂筑紫の海の不知火は燐光を放散する小動物の浮游なりと云ふ。若し暗夜燐分多き海に於て怒濤岩に激する時或は孤立したる燈臺に波浪衝激する狀を近接して見れば珠玉飛び銀流送り思はず快哉を叫ぶを禁ずる能はざるなり。

二五 「コロンボ」港

六月九日早朝「セイロン」島「コロンボ」港の西方七十哩の地に達し漸次港口に接近し一旦停止して水先案内人に乗せ正午港内に繫留せり。港は防波堤を北方に長く突出せしめて人工的に形成し二個の港門を有せり。港外は直に廣漠たる印度洋なるを以て巨濤防波堤に衝突する時は飛瀑十丈の壯觀を演ず。築港の廣さ南北約一哩半東西約七鏈面積約六百六十英町水深三十呎乃至三十六呎浮標は六列に配置され總數五十三個港内の船舶は首尾繫留にして秩序整然たるを見る。然れども港幅大ならざるを以て大艦隊の收容困難なり。

此地北緯七度五分東徑七十九度五十分に位し東洋より歐洲行航路の衝に當るを以て大汽船の出入頻繁なり。乾燥期に於ては焦熱燒くが如しと雖も今月初頭以來雨期に入りたるを以て溫度餘りに高昇せず。即ち甲板溫度華氏七十八度を

往來するに過ぎず。

市街は海上より望めば椰子樹能く繁茂し綠濃かにして其間に赤瓦の屋根散見し恰かも洋畫の風景を見るが如し。汽艇に乗じて棧橋を昇れば土人の人力車夫其の一側に集合して客を待つもの先づ目に映じ道路の人皆印度人にあらざれば白黒混血種或は馬來人にして一人の支那人を見る事なし。市街の南隅は白人の官衙及び商店にして他は悉く土人の住家及び店舗なり。土人は吾人の制服を見て崇敬と親愛を感じるもの、如く周圍に集り來りて敬意を表するものあり。貨幣を乞ふものあり進んで案内を爲さんと申出づるものあり。彼等は悉く好感を以て遇せんとするの情言外に溢る、を見たり。蓋し少數の智識階級を除けば一般の支那人は殆んど國家的觀念なく唯利益を見て蝟集し來るのみ。人種を辨別して國際的の意味を含むもの少しと雖も印度人は稍や國家的觀念を有し、東洋の宗國として暗に依頼せんとする念あるが如し。

先づ博物館及び公園を見る。博物館は規模大ならずして多く見るに足るものなしと雖も唯佛像の甚だ古きものと古代土人の首飾及び武器等を珍とす。公園は熱帯特有の樹木ある外記するに足らず。

翌日「カンデー」に遊ぶ。當地在留の臼井清藏氏案内役たり。氏は當地に在留する事已に十年餘諸方面に知己多く公私の事情に明かなり。又最も義侠心に富み當港に出入する本邦の船舶或は當地の外商と取引する貿易商等氏の斡旋により流暢なる英語と相待ちて紛糾したる事件を解決したる例甚だ多し。氏は雜貨商店を經營し又軍艦に糧食品を供給せり本艦に胸膜炎患者一名發生し内地に送還する必要を生じ便船たる佛國船に依頼せんとせし時該船長は患者たる名を恐れ百方口實を設けて承引せず。止むなく臼井氏に依頼せしに氏は獨特の辯舌を揮ひ或は説明し或は威嚇して遂に該船長を説伏し以て患者の送還をなし得たり。

「カンデー」は「コロンボ」の東方約七十三哩殆んど錫蘭島の中心に位置し其地高燥にして氣候比較的冷涼なり。途中汽車は斷崖絶壁を上る。熱帯の樹木蒼鬱として繁茂し其間に突兀たる奇岩あり。清涼なる溪水あり。「アダムスビーク」の秀嶺は群山を抜きて天に聳え景色佳なり。約四時間にして到着し先づ植物園を観る。規模大にして幽邃閑雅珍木奇樹多し。市街の傍に瓢形の湖あり。其水清冷周圍の老樹影を湖心に浮べ風景愛すべし。次に佛牙寺を観る。釋迦の齒牙を葬りたる處なりと云ふ。本島は比較的佛教の盛なる地にして至る所佛寺の存在するを見ると雖も孰れの寺院も本邦の夫れの如く樹木叢生し幽靜にして自ら崇敬の念を起さしむるものなく徒らに白堊を塗り石階を造り半ばは歐風を模倣したる形跡を存し又寺院の住僧及び地方の住民皆旅人の懷中を窺諭して口錢を得んとするもの、如し。唯菩提樹の庭前に繁りて香氣を漂はすものと壁畫の地獄極樂は佛寺に相應しきを感じたり。本寺に於て住僧予等々の爲めに經を讀み幸

福を祈らん事を乞ひしを以て乞ふが儘に爲さしめたるに彼僧堂の階段に上り四周に集りし住民をして其下に跪坐せしめ自ら音頭を取りて讀經し住民をして之に和せしめたり。其態度洋傘を持ち柱に倚り少しも誠意の存する所を認めず。住民は唯機械の如く唱和したるのみ。中には微笑を含みて周圍を顧盼するものあり。斯の如き態度斯の如き讀經畢竟之れ賽錢に有り附かんとする眞意なるを喝破されたるを知らず寧ろ憐むべし。

佛牙寺を出で河邊に出づれば數匹の大象を曳きて來るものあり。頻りに乗る事を勸む。而して其報酬を得んとするなり。其周圍に集りし村民大人も小兒も皆貨幣を求め煙草を請ひ甚しきは手に持てる手布をも貰ひ受けんとす。其狀恰も佳味に集まる蒼蠅の如く拂へども去り難し。亡國の民と雖も何ぞ無氣力の甚しきや。蓋し廉恥心の缺乏せるは教育なきがためなるべし。印度三億一千万の人民中憂國慨世の志士多しと聞く。局に當るもの須らく教育を普及せしめて以

て世界の現状を知らしめ又彼等の自尊心を興起せしめて現在の奴隸的境遇を脱せしむる工夫を刻下の急務とす。然れども英國は教育の普及を喜ばず。上流者の子弟に對しても學問の制限をなし智識の向上を抑制する方針を執りつゝあり。又土人間に於ける衛生的設備は多く注意を拂はれず。故に内地に於ては諸種の傳染病蔓延し之れが犠牲となるもの多く一般に死亡率高し。租税は容赦なく徵收し救濟法は不行届なり。書籍雜誌は版權を制限し人種の待遇は階級的差別的なり。如斯姑息なる抑制策は永遠の平和を齎らすべし所以にあらざるべし。

二六 錫蘭島

本島有史以來最初の民族は「ベンガル」地方より渡來せる「ウエダ」族なりしが後「ウイジア」なるもの本島を統一し「シンハリー」種族として約二千年の永き歴史を有し本島の開發に貢獻せり。

其後千五百六十年葡萄牙人本島に來り殖民布教に努力せしが遂に土人を征服するに及ばずして破滅し續いて和蘭人渡來し殖産貿易を獎勵し「シンハリー」族の主權者「カンデイ」王を懷柔し稍や本島の統一を見るに至りしも其根柢未だ固まるに及ばずして英國人の爲めに追はれ全島を擧げて英國統治の下に委するに至り尋て英國は「カンデイ」王の虐政に乗じ之を亡滅し始めて完全に全島を掌握するに至れり。

本島は面積二萬五千三百三十一方哩を算し略ぼ我が九州四國を合したるもの

に等し地勢一般に平坦にして耕稼に適せると中央より南西に互る一部隆起し其最高點八千二百九十六呎なり。

本島の氣候は乾濕二季に分つ。信風は氣候に大なる影響を與ふるものにして其變換により季節を交代す。而して南西信風の終季に於て多量の降雨あり。「コロンボ」地方に於ては十一月より五月に互り乾燥季にして其終末に於て氣溫最も高く夜に入りて溫度減却せず堪へ難き事ありと云ふ。

千九百十五年の調査によれば本島の人口四百二十六萬七百人にして其中「シンハリー」最も多く「タミル」「ムーア」之に亞ぎ歐亞混血人又之に亞ぎ「マレー」英人等は數に於て最も少なり。

本島の輸出品中主なるものは茶にして之に亞ぐものは護謨なり。其他「コブラ」椰子油、黒鉛、乾椰子、檳椰子、肉桂等あり。輸入品の主なるものは米にして之に亞ぐものは石炭織物肥料金屬等なり。

本島は茶及び椰子製品の外農産として殆んど數ふべきものなく其他林業鑛業見るべきものなし。

本島は英國皇帝の任命する總督「コロンボ」に駐在して政治上の實權を掌握す尙殖民地民政長官、財部長官、會計検査院長、軍司令官、檢事總長、西部南部兩縣理事官の七名の官吏を以て行政院を組織し總督の諮詢機關たり。其外立法院は廿一名の議員を有し宗教を除くの外一切の法案を審議す。

警察は檢事總長の下に警保局長、監察官、警部、巡査あり。尙各地に警察署、分署の設備ありと雖も一般殖民地と同様に收賄行はれて頼むに足らず。只其容貌のみ堂々として真相を知らざる鼠賊を威嚇するに足るのみ。

教育は英國政府の重きを置かざる所なり。寧ろ土人智育の啓發に冷淡なる方針にして義務教育の制度なく又高等の教育機關なし。吾人は汽車の窓より屢々林間學校を見る事あり。白色の裾長さ衣服を纏へる温厚にして慈愛に富める容

貌を有する土人教師は跣足にして快活なる兒童を集め椰子樹陰の閑靜なる所に坐を占めて實物教育をなしつゝあり。

宗教は多種類なれども佛教は最も信徒多く之に亞ぐは「ヒンヅ」及び「マホメッド」なり。基督教は歐洲人及び少數の智識階級の方面に信者を有するが如し。佛教寺院は「カンデー」の佛牙寺を始めとして「ケラニヤ」「コロンボ」等に散在し各寺院皆必ず釋迦の涅槃像を有す。僧侶は黄色の法衣を纏ひ肉食妻帯を禁じ表面甚だ敬虔なるもの、如し。

本島に在留する日本人約三十名帝國の出入艦船の糧食調達に従事するものあり雜貨を販賣するものありと雖未だ大なる成功者を見ず。三井物産會社は近き將來に於て「コロンボ」に出張所を設置すと云ふ。

本島々民は一般に階級制度嚴格にして封建時代の如く形式に捉はれ舊習を固守し進歩發展を妨ぐる事大なり。且つ異宗教者互に侮蔑して親和する事なく民

族的團結心甚だ乏し然れども生れながらにして頑固なる宗教に生育されたる丈
 け思索に耽けり眞理を闡明する哲學者的の性格を有するもの多し。若し適當な
 る教育機關を以て彼等の長所を進歩向上せしめれば必ずや社會人生に貢獻する所
 多かるべきを信じて疑はず。

二七 濠洲官憲の不親切

六月十六日「コロンボ」を發し英艦「ブラー」を護衛しつゝ「フリマントル」
 港に向ふ。途中赤道を過ぐる頃豫定の如く英船の護衛を解き單獨「メルボルン」
 に行かしめ本艦は往路の如く「ココス」島に向針せり。出港以來常に南西の微風
 ありて海上平穩なりしが濠洲西岸「シャークベ」に至る頃より俄然北西の風と
 變じ風力漸次増加して七乃至八に及び晴雨計下降して最低度二九、二五に至る。
 海上は怒濤狂奔海水の飛沫甲板上を蔽ひ満天亂雲彌蔓して雲飛ぶ事矢の如く四
 面暗澹たり。此暴風の中に本艦は六月卅日午前「フリマントル」港外に到達し「ア
 ルパニー」より重油を搭載して當港に來着せる軍艦利根と會せんとすれども港
 外は波浪山の如くにして汽艇の往來を許さず。止むを得ず利根は水先案内者を
 乗せて先づ入港し本艦は港外に假泊して波浪の鎮靜を待つ事とせり。

始め本艦は長航海を終り「フリマントル」に於て石炭糧食其他の軍需品を積載し汽罐の手入と乗員の休養とを爲さんとせしに濠洲官憲は無線電信にて石炭の供給は「アルバニー」にて爲されべき旨通じ來りしを以て本艦は「フリマントル」に入港せず艦隊を解かれ不日歸朝すべき利根艦長との會見を終り次第出港して「アルバニー」に回航せんと決心せしなり。

暴風は連日止まず波浪は依然として高く交通は全く杜絶されたり。本艦は双錨泊をなし汽罐を點火し八節に對する蒸汽を保持し見張を嚴重にして之に備ふ。斯くして三日間空しく港外に假泊するの止むを得ざるに至れり。

「アルバニー」は南緯三十五度一分五十秒東經百十七度五十三分「フリマントル」港より海上四百哩（本艦は機械水雷の顧慮より百尋界線の附近を航す）にして甚だしく遠隔したる地に非れども假りに彼我地位を易へて考へしめよ。即ち帝國は或る一國と交戦状態にありし時帝國の軍艦は策戦上通商保護の餘裕な

く同盟の義により英國の一軍艦は新嘉坡と横濱間を警備しつゝ嚴寒の候帝國の一商般を護衛して新嘉坡を出で途中一も寄港する事なく横濱に直航し來りし際日本の官憲は横濱に於て石炭の供給を許さず無線電信を以て石炭の供給は青森に於て爲されべき旨を通じ來れりと假定せよ。而して其英艦は青森に行きて石炭の供給を受け終れば直ちに横濱に引き返して英國司令官の命を待つべき義務ありと假定せよ。其時英艦の乗員は如何なる感想を懷くべきや。今之を吾人の境遇に比するに吾人は英國の爲めに「コロレボ」「フリマントル」間を往復し英船を護衛しつゝあり。而して其間の湮程略ぼ相同じく季節は正に此地方に嚴寒なり。低氣壓の襲來を豫期せざるべからざる時なり。又「アルバニー」の「フリマントル」に於けるは猶ほ青森の横濱に於ける關係と等し。即ち兩所間の距離よりするも波浪高さ外海を航海する點より考ふるも且つ其都市の繁榮と物資の供給の程度より察するも將た嚴寒の候高緯度の地に向ふ事より論ずるも皆適

切なる比較なり。而して吾人は石炭積載を終れば「フリマントル」に待機すべき命を受けつゝあり。尙此時「フリマントル」に於て英艦「フリスベン」及び幾多の英國商船は石炭の供給を受けつゝありしを目撃したる吾人は濠洲官憲の不親切なるを感じ此偏僻なる植民地さへ排日思想の彌蔓せるを知り又しても憤慨論は士官室を沸騰せしめたり。吾人寡聞にして未だ日本の軍艦が單に石炭搭載の故を以て八百哩を航海せしものありしを聞かず。而して今回軍艦日進は濠洲官憲に強要されて之を爲せり。

七月四日早朝「フリマントル」港外を抜錨し「アルバニー」に向ふ。果して低氣壓の襲來に會し西方より來る大濤山の如く艦體は木葉の如く翻弄され備さに辛苦を嘗めて翌日の夜「アルバニー」港外に達し翌朝水先案内人に乗せて石炭棧橋に横附し其日は夜を徹して作業し石炭九百噸を積載せり。

「アルバニー」の外港は一邊約二哩半の正方形を爲し東南方は「ブレイクシー」

及び「ミチャイラムス」の二島を以て界し他の三面は大陸によりて圍繞せらる。港内水深五尋乃至十尋内港は東西約二哩南北約一哩にして水深二尋乃至五尋、内外港の連絡海峡は可航水路の幅僅に一鏈なるを以て内港は如何なる風に對しても靜穩にして大船巨舶と雖も横附して載炭する事を得。

當地は人口約三千の村落に過ぎざれども街路整頓し住家概ね清潔なり。市街は山麓の斜面に建設され四面の連山内港の靜波と呼應し平和にして風光明眉なる地なり。當地に在留する日本人三名あり。皆農業に従事す。其中の一人なる津村某を訪問せしに氏は廣島縣の人故郷を出でて二十年始め西濠洲の北部に於て漁業に従事せしが今日は農業に轉業せりと云ふ。而して今や甘蔗の栽培に餘念なかりき。氏の談に依れば當地附近は地味膏腴にして野菜に適し且つ未墾の地にして耕稼に適せる所甚だ多しと。又曰く當地は殆んど積雪を見る事なく此頃の時候は最も寒しと云ふ。但し頃日本艦の甲板温度は華氏四十九度なりき。

二八 商船臨檢

七月九日本艦は「アルパニー」より「フリマントル」に向ふ途次午前三時「チヤタム」島沖約三十哩の地點に於て一商船の無燈航行するものを認め發光信號を以て其船名を問ひしに彼應ぜず。約三千米の距離を隔て、反航し去らんとす。由つて本艦は戰鬪を令し一令の下に發射せしむべく大砲及び魚形水雷の準備を完整せしめ且つ反轉して之を追躡し先づ空砲一發を發して停船を命じたるに汽船は始めて停止せり。由て本艦は端艇を卸し分隊長一名を派遣して臨檢を爲せり。

臨檢の結果左の件を知り得たり。

- 一、船籍 英國。
- 一、所有者 英國「ホワイト、スター、ライン」社。

- 一、船名 「バーシー」。
- 一、噸數 「グロス」一二、〇〇五噸「ネット」七八五四噸。
- 一、速力 一二、五節。
- 一、船客積荷 ナシ。
- 一、船長氏名 「スターク」。
- 一、船の用途 英國陸軍運送船。

船長の申立及び航泊日誌の記載する所に依れば同船は五月上旬英國陸軍兵を載せ英本國を發し亞弗利加西岸「ケープタウン」及び「ダーバン」を経て舊獨領東亞弗利加「ダルエスサラム」港に軍隊を揚陸し六月廿二日同港を發し「シドニー」に向けて航行中のものなる事を確め得たり。尙船員の服裝言語及び舉動船内の載貨及び船室の物品より判斷し船長の言に偽り無きものと認め臨檢官は同船の航泊日誌に規定の臨檢調書を記入し署名して釋放せり。

抑も商船臨檢搜索は交戦國軍艦の有する權利にして亦作戰の進行上極めて必要なる行爲なり。何んとなれば敵の船舶にして中立國の旗章を掲げて航海し敵の爲めに作戰上の便利を與ふるものあるやも知るべからず。又中立國の船舶にして敵に好意を表し或は金錢の爲めに賣られ敵の命に服して機械水雷沈置偵察等の行爲を爲すものあるやも知るべからず。而して此時中立國より考ふれば航海の中途に於て兩交戦國の軍艦に會する毎に停船を命せられ臨檢搜索を受くるは船主の損失發着の遲延及び船員の煩累等不便少からず。且つ獨立國の自尊心を害するものなれば交戦國の此權利を制限せんとする傾向あり。是に於て實際間に規約を一定して紛擾を避くる必要あるなり。又先例に規り當時の事情に鑑み是非を判斷せざるべからず。兎に角吾人の有する權利の行使にして又必須の處置なり。

今回の歐洲大戰は國際的に相拘束せる海上法規及び公法の規定を蹂躪し終れ

り。獨逸は「必要は法律を知らず」と公言して目的の前には手段方法を問はず潜水艦を驅つて無警告の撃沈を敢てし無防禦の都市に爆彈を投下して老幼婦女を殺傷せり。吾人の當時獨逸を敵として海上に馳驅しつゝありたり。周到なる注意と銳利なる觀察とを以てするに非んば不慮の災厄を蒙むるの虞あるべし。

商船臨檢の事實は甚だ簡單なれども深夜人定まり哨兵として砲側にある少數のものを除く外悉く寢に就き機械回轉の音のみ暗夜の靜寂を破りつゝあるとき艦内に響き渡る戦闘の號音は實に物凄きものなり。而して此の號音により暖き夢を破られ蹶起して自己の配置に就く兵員の動作は亦感嘆に値す。斯くして突嗟の間に戦闘の準備を完成し更に命令一下すれば八吋砲廿七貫の彈丸は轟然唸を生じて砲口を離れ赤熱しつゝ旋轉しつゝ目的物に向つて飛行す。而して一發の彈丸と雖も船體の要部を貫通すれば幾百人の生命財産と國家の財寶とを海底に葬らしむるに足るものなり。

若し又此時魚形水雷を發射すれば直徑十八吋多量の高勢爆發藥を裝填しある怪物は水面下約三米の深度を保ち自ら上下左右の操舵を爲しつゝ敵の艦腹に向つて轟進し目的に到達すれば百雷の一時に落つるが如き轟音を發して爆發し側面を大破し敵を瞬間に沈没せしむる事を得べし。

二九 「フリマントル」港及び「バース」市

「スワン」河の流漾々として牧場を浸し森林を繞り流れ流れて西濠洲の要部を灌漑し土地豊饒にして草木能く繁茂す此處に「スワン」河口を擁して「フリマントル」の港を建設し「フリマントル」より陸路十二哩の上流に河を挟みて西濠洲の首府「バース」の市街あり。此二市及び二市を抱擁する郊外一帯は實に西濠洲の富の中心商業の中心にして且つ政治の中心なり。

此地は倫敦を距る九千五百哩に位置する英國の殖民地にして二市共に街區整ひ商業般盛なり。又總ての享樂機關備はらざるはなく日用の商品需要供給に於て不足なし。十四年前軍艦嚴島にて遠洋航海の途次訪問せし當時と比較すれば港灣の設備に於て市街繁榮の程度に於て著しく進歩發展せるを見る。此二市間は郊外能く開け綠樹鬱蒼たる傍には必ず瀟洒たる住家を見る有様にして附近は

能く開墾せられ村落相連続して其間に空地なし。

西濠洲は一般に平坦にして深山幽谷の景色を賞すべき處なしと雖も此二市は公園の設備行届き「スワン」河は沿岸の森林の緑と朱帆白塗の「ヨット」と優游する白鳥の群集と能く相調和して風致を添ふる事大なり。

「フリマントル」築港は「スワン」河口にありて北岸より西方に四千八百呎南岸より西方に二千四十呎の防波堤を築き以て長濤の侵入を防ぎたり。而して其突堤間は即ち港口にして幅七百五十呎可航水道四百五十呎水深三十一呎なり。築港内は長さ約八鍵最大幅約二鍵の長方形にして水深三十呎乃至三十三呎なれども漸次全部を三十六呎と爲す計畫なりと云ふ。尙當地港務局長の言に依れば將來「スワン」河の上流に築港を擴張し大計畫の浚渫工事をなし以て濠洲西岸唯一の良港たらしむる抱負なりと云ふ。

今を去る一百年前を顧みれば荒蕪したる平原に少數の冒險移民と假出獄人に

よりて一小村落を構へたりしが今日は西濠洲の首府として貿易輸出年を追つて増加し又近き將來に於て「フリマントル」の港外に軍港建設の計畫あり今後の發展大に囑望されつゝあり。

一日「バース」の博物館を見る清潔にして配列能く整ひたり。其美術部に於て古代佛伊の大家の作を蒐めたるあり。其他見るべきもの尠からず。特に日本美術として豊國、芳幾及び國周等の浮世四十八僻、時世粧、菊揃、賢女烈婦傳及び江戸名所百人美女等の畫を陳列しありしは一驚を喫したり。又日本古代の貨幣及び鎧冑太刀及び三味線等の粗品を列べ題して日本品と云ふ。是れ亦恐縮の感なき能はざりき。

動物室に於て剝製の多數なると標本の豊富なるは感嘆に値す。且つ動物生活の状態を示さんが爲めに土を敷き草を植え或は木葉を集め樹枝を構へて巢を作り卵を配置する等至れり盡せり。又古代の巨大なる動物の骸骨の如き或は普

通の牛の三倍大なる「ピソン」の剝製の如き或は「アーマデロ」「ダシバス」「ピロサス」の如き珍奇なる動物を蒐集したるは學生の博物學に資する所大なるべきを思ふ。

當時「パース」及び「フリマントル」に在留する邦人醜業婦を合して約三十名ありと雖も悉く生存の敗殘者にして憐むべき形骸を五千哩の異邦に寄託するに過ぎず。勿論一商店を所有するものなく發展の見込あるものなし。

嫉妬心燃ゆるが如き濠洲官憲は一千九百〇一年以來邦人の渡航を困難ならしめ妻帯を許さず。加之邦人の經營する商店に臨むに非買同盟を以てし土地を所有するものは強制買上を以て退去せしめ横暴至らざるなかりしかば概ね初志を棄して歸國するもの相繼ぎたり。是に於て數年の後貯蓄あるものは憤然として歸國し當時當地に残留せしものは或は歸國の旅費なきもの或は疾病に冒され移轉を許さざるもの或は纔に勞働の職に就き糊口の糧を得て醉生夢死するもの或

は強烈なる「ウイスキー」の酒精中毒に罹り比較的簡單なる勞働の外他に就職の道なきもの等なり。余は當地に在留する幾多の邦人と會ひ實情を聞く毎に事實は噂よりも尙甚だしきを感じたり。

本艦の軍醫長に診察を請ひたるもの四五名ありき。是等は總て療法を教へ藥品を給して恤み歸へせり。彼等曰く西濠洲の醫師は病氣に對し適確なる病名を與へず。又其診察粗略にして親切ならずと。生活上の劣敗者は斯くして嫌はれ虐げられ痼疾を有して今日迄呻吟しつゝありたるなり。而して彼等は概ね無教育にして衛生の知識なく一日の勞働を終りて宿所に來れども家庭の團樂なれば止むなく「ウイスキー」の獨酌により纔かに鬱悶を散じ遂に過飲し遂に中毒して健康を害したるもの多し。

濠洲人は一般に享樂主義の信奉家にして且つ怠惰なり。之を東洋勞働者の低廉なる賃金に甘じて勤勉なるに比すれば到底彼等は太刀打するの不可能なるを

知る。故に官憲を利用して百方之を壓迫し驅逐して然る後安心して我儘をなすつゝあるなり。如斯不道理豈永く存在するものならんや。天は公平なり勤勉にして精勵なるものは生存競争場裡の勝者たるの日あるや必せり。享樂の夢は黄梁一炊の煙の如く醒めたる時惡習に感染し修養を忘れたるものは周章狼狽するの日あるべきを信ず。

西濠洲官憲の邦人に對する虐待は實に不法なりと雖も又現に在留する邦人の労働者と接したる吾人は彼等の甚だしく無教育にして無氣力なるを見て西濠洲官憲の邦人に對する侮蔑の由て來る所あるを感ぜずんば非るなり。此時最良なる善後策は移民法の改正を要求して有利的に實施せしむるにありと雖も之れ恐くは近き將來に於て實現され得べしとも思はれざるを以て生存の敗殘者は病人と共に官費を以て悉く歸國せしめ一は以て零落したる邦人を外國に漂浪せしむるの謗を免れ一は以て彼等の餘生を永く懂れたる故郷の天地に送らしむべきなり。

り。此れ切に吾人の當局者に望む所なり。

今後移民法にして之を許さば嚴重なる體格検査を施し語學を試験し尙多少の財産を所有せしむるの條件を以て移民法の改正を要求し健全にして教育ある大和民族の發展を促せば西濠洲無限の富源は茲に開拓せられ財を作り産を成すもの少からざるべし。其際吾が政府は横濱「フリマントル」間に航路を開通し移民のために渡航費を給し諸般の便利を與へ以て移住を奨励すべきなり。

西濠洲人は排日志想の盛なる斯くの如しと雖も彼等は個人として英國人的の幾多の美點を有し穩健なる思想と懇切なる情愛とを具備し公德の觀念發達せることに於て秩序を重ざる點に於て邦人の學ぶべきもの多し。然れども植民地的の淫靡なる風習と成金の跋扈とは免れざる所なるが如し。只小學兒童の能く人に慣れ無邪氣にして憶せざるは濠洲一般の風習にして又彼等の美點なり。

三〇 西濠洲の産業

西濠洲は濠洲の西部に占位し九七六、〇〇〇方哩の尨大なる面積を有し熱温の二帯に互る。北部は一般に砂漠又は荒蕪地なれども南部は雨量多く地味肥沃なり。本洲の産業は主として牧畜業、農業、鑛業、水産業及び林業なり。

牧畜業は廣大にして豊饒なる牧場に羊及び牛の牧畜盛なり。羊毛は主なる輸出品として英本國の市場を賑し牛酪及び乾酪は品質精良にして美味なるを以て有名なり。其外馬、豚、山羊、駱駝、騾馬及馱馬等を養育し本洲に於ては特に駱駝及び騾馬を産出せり。

最近千九百十五年産出したる羊毛は二四、五六二、一一〇磅の價格を有し其輸出額の百分の四十四は英本國に其他は佛蘭西、獨逸、白耳義、米國及び日本に供給す。今其細目を示せば

(國名)	(一九一〇)	(一九一四)
英國	一一、四四七、三五九磅	一五、四一三、一七四磅
佛國	六、九〇五、一七七	六九四、七五一
獨國	六、〇五三、八七三	二九五、三七六
白耳義	三、〇八四、八四七	一八七、七五五
米國	五七九、六〇五	三、一一〇、三〇一
日本	四二〇、六二二	一、五〇二、九七六
伊太利	一八一、四五七	七二六、二六〇

農産は地味の肥沃と氣候の適順とに依りて頗る有望なり。只人口稀薄にして未墾地多く收穫従つて多からず。

今年次に従ひ全面積に對する耕地の百分比を示せば
 全面積に對する耕地の百分比
 年

一九〇一 〇、〇三五
 一九一〇 〇、一三七
 一九一四 〇、二九九

農産中最も多量なるは小麥にして之に亞ぐものは燕麥、大麥、馬鈴薯なり。
 最近千九百十六年の産出額を示せば左の如し。

品名	量
小麥	一八、二三六、三五五「ブツセル」
燕麥	一、五三八、〇九二
大麥	一三〇、八七〇
馬鈴薯	一四、一一八
裸麥	三、五六四
玉蜀黍	二七三

玉葱 四六七

鑛物の産出亦少からず。然れども歐洲大戰勃發するに及び勞働者の減少に伴
 て産出額を減少せしは止むを得ざる所なり。今千九百十四年の産出額を示せば

品名	價格
金	五、二三七、三五三磅
石炭	一四八、六八四
鉛	四六、三一五
銅	三八、一七四
錫	三五、六四九
銀	二二、九一四

本洲に於ける金鑛は他洲に比して最も遅く發見されて現今は最多量に産出す。
 之れ畢竟「カルグーリー」大金鑛の發見と其豊富なる鑛脈とに起因する所にし

て廣漠たる本洲に移民を吸收する主なる原動力たるものなり。其他の諸礦物も漸次勞力の増加に従ひて發展すべきや必せり。

林業は多く南西部の山地に於て行はる。「チャラー」「カリ」「サングルウッド」等の良材を産出し最近に於て年額四十萬磅以上に達すと云ふ。

水産は従業者少く産額多からず。然れ共「シャークベール」附近の眞珠は濠洲第一にして千九百十四年の産額三百十萬磅に達せり。近年は漸次減少する傾向ありと雖も養殖其法を得れば有望なる物産たることを得べし。

之を要するに西濠洲は北端低緯度の地を除けば氣候順良にして吾人の健康に適し海陸に遺利多くして多年勞力の供給を待つものゝ如し。然れども地は南溟の窮極に在り。其發見の年代も亦最も遅りしが故に開發の程度少なきは理の當然なるべし。若し將來諸種の産業發展し事業勃興せし曉は世界有數の富庫たるべきや必せり。

三一 濠洲

千六百〇三年西班牙人「ドロスキ」西班牙王を説きて探檢隊を組織し三隻の帆船を醸し「リマ」を出發して南方の寶庫を開かん事を企てたりしが數月の後ち南海に於て一塊の陸地を發見し二日間其沿岸を航し一良港を發見して「テラオーストラリス」なる名を與へたり。之れ「ヘブライヅ」島にして濠洲大陸にあらざりしも其名の由て來る所なりとす。後蘭船「デューヘン」は「ニューギニア」の海岸より南下し「カーペンタリヤ」灣に入りて其の東岸に上陸せり。之れ濠洲大陸に白人の足跡を印したる最初なり。後千七百七十年英國の大航海家「キャプテン、クック」先づ「ニュージールランド」に至りつづいて濠洲東岸に豊饒なる土地を發見し、博く世界に紹介し、以て今日の大濠洲の基礎を爲せり。

本洲の面積二、九七四、五八一平方哩北米合衆國より大にして加奈陀の五分の四に匹敵し全英國の四分の一に相當し吾が帝國の十一倍餘に當る。其一半は熱帶圈内にありて溫帶との比五と十三の如し。

濠洲の地勢は岸線に沿ひて山脈連互し中部は一般に臺地にして且つ砂漠多く大平原を爲せり。而して北部は熱帶圈内にあるを以て中央平原の砂漠を吹く熱風連吹すれば海岸肥沃地の田畑を荒廢せしめ牧畜を斃死せしむる事ありと云ふ一般に雨量少く僅に東岸の一部を除けば往々旱天に苦しむ事あり。東岸は暖流南下し西岸は寒流北上す。山地は森林天を蔽ひて良材多く平原は矮樹叢生す。濠洲の土人は世界に現有する種族中最も野蠻蒙昧なる人種の一にして團體なく統制なく衣服として見るべきものなく一定の住處なし。唯野獸を屠り果實を取りて飢渴を醫するのみ。勿論耕作を爲さず貯蓄する事なし。即ち石器時代のものなり。殊に内地の山林にありて白人と接せざるものは所謂猿の人又は曙の人

と相距る事遠からず。其數千九百十一年の調査に依れば全濠洲を通じて一九、九三九なれども漸次減少し

英國は國事犯罪人の流謫地を求めつゝありしが偶々「キャブテンクック」によりて世に紹介されたる濠洲を以て之に充てん事を企て先づ最初に約一千人の男女罪囚を送れり。之れ今日の「シドニー」の地にして始め早魃の爲めに耕稼の成績揚らざりしが漸次肥沃の地を附近に發見し又牧畜をなして好成績を得今日は牧畜を以て世界有數の地と爲れり。試みに牧畜に因る製造品の千九百十年に於ける輸出額を調査すれば

名稱	斤	量	價格(磅)
バター	八七、八九四、九四三	三、九五一、一三一	
チーズ	九一一、七〇〇	二二、七三〇	
コンデンスミルク	二六六、九〇四	四、八六五	

ハム

一、六〇四、三だ二

五六、九九五

ポーク

七四一、四一〇 一七、〇八七

其他菓物の輸出も相當の額に達し農業國として有望なる未來を有するに至れり。

濠洲は又鑛産に富む。十九世紀の中葉に於て偶然「バザルス」地方に於て砂金の發見せられたるより金鑛は濠洲人の注意を喚起し各處に於て産地を發見するに至れり。「カルグーリー」大金鑛は千八百九十三年六月探檢家「バトリックハンナン」及び「フラニガン」によりて發見されたり。「フラニガン」は森林中に迷ひ入りたる彼の馬を搜索中偶然數個の金塊を拾ひ得たり。由て兩人拾ひ得たる金塊を携へて「クルグーデー」に歸り廣く世に吹聴せり。是に於て其名四方に喧傳し世界の各地より移民を吸收する事漸く多し。

濠洲は政治的竝に地理的に左の各洲に分つ。

ニュー、サウス、ウエールズ。ヴィクトリア。クイーンズランド。サウス、オーストラリア。ウエスト、オーストラリア。タスマニヤ島竝にバブア島及び「ノーザンテリトリー」。

各洲に總督あり。上下兩院あり。聯邦に聯邦總督あり。上下兩院と内閣とあり。聯邦政府の主なる權力は財政と國防の方計を定むるにあり。又外交及び通信事務、關稅、檢疫特許等を掌り移民に關する立法權等を有す。而して聯邦政府の權限として明記されざるものは各洲議會の權利に屬す。故に其權限廣汎にして中央政府の權力比較的薄弱なり。又聯邦總督は議會の決議案を批准し國務大臣の任免法律豫算等の施行に當ると雖も實力なく形式的なり。即ち批准を拒むの權なく行政各般の事務は内閣會議に於て決定せらる。而して内閣の首班者は多數黨の首領なるを以て英本國と同じく政治の實權を掌握し總督及び上院は或る意味に於て虚器を擁するものなり。

濠洲人は一般に殖民地的の自我志想發達し都市間に係争問題を有して相譲らず。又各州各利害を異にし局部的に統一を次ぎたるもの多し。之等は將來國家的發達に於て前途幾多の障碍たるべきのなるべし。

濠洲は左の都市及び人口を有す。但し千九百十一年の調査に依る。

州名	都市名	人口
ニュー、サウス、ウェールズ	シドニー	六二九、五〇〇
ヴィクトリア	メルボルン	五八九、〇〇〇
サウス、オーストラリヤ	アデレード	一八九、七〇〇
クインズ、ランド	ブリスベン	一三九、五〇〇
ウエストオーストラリヤ	パース	一〇六、八〇〇
タスマニヤ	ホバート	三九、九〇〇

植民地の常として人民は都市に集中し地方は荒廢し商業は需用供給を充せど

も農業は住民少くして一般に振はず。

濠洲海軍は濠洲人の建設せる艦隊により成立し一萬二千哩の海岸線を防禦す。海員の養成法は徴兵法によりて召集したる壯丁の中より選抜して専門の教育を施せり。

海軍兵學校は「ニューサウス、ウェールズ」州「ヂエベスベール」に在り英本國のものに準據して訓練しつゝあり。

陸軍は從來戦争の經驗なき濠洲人の等閑に附せられたるものなりしが當時は時世の要求に應じ法令を制定し壯丁を徴募し組織的に訓練しつゝあり。又士官學校ありて將校の養成に従ひ尙其優秀なるものを撰抜して本國或は印度の陸軍大學に派遣し卒業歸國の後は樞要なる位置に使用せり。

三三二 濠洲移民を論ず

生存競争自然淘汰は之れ生物界永久不變の鐵則にして優れるものは勝ち劣れるものは敗るゝは生物ありてより今日に至るまで今日より未來永劫吾人の生活を支配すべき憲法たるなり。吾人は一個人として常に他に優らん事も希望し之れがために努力し他人亦吾人を競争者とし優勝の地位を贏ち得んとして精勵しつゝあるなり。是に於て切磋あり琢磨あり互に進歩し互に發展する事を得べきなり。

廣漠たる未墾の土地を開拓し豊かなる産物を出し以て民福を圖るは天意に従ふものにして稱讚すべき事なりとす。然るに若し土地を専有して移民を妨害し以て公益を壟斷し天理人道に背き且つ姑息にも競争場裡の敗者たるを免れんとするものあらば到底永く其榮華を續くる事能はざるべし。濠洲官憲は千九百〇

一年東洋の移民排斥法律を制定し其主要點たる「税關吏をして上陸を求むる移民に對し何れかの歐洲語五十を記さしめ之を能くする事能はざるものは上陸を禁ず」との條文を故らに曲解し帝國の國民に對し英語を能くするものには他の難解の外國語を質問し即ち歐洲語の撰擇を移民に委せずして税關吏に一任し我が移民を拒絶すべき旨を含めて惡辣手段を振はしめたり。之に反し白人にして移住を拒絶されたるものなし。勿論教育試験を爲さず又惡疾契約違反等の爲めにも拒絶されたるものさへなかりき。之を以て在濠洲の邦人は只一時的の滞在を允さるゝに等しく商業に農業に充分手腕を振はんとする餘裕なし。

白人濠洲主義は各州を通じ又各政府を通じて常に呼號されつゝあり。彼等は表面は一語一王主義を提唱して他の移民を喜ばず。然れども其裏面は極めて打算的なる弱點を赤裸々に表顯して公益を壟斷せんとするにあり。彼等は初め濠洲を土人の手より奪ひし時は「人類の利福の爲めに土地を利用する法を知らず